＜幼児保育学科＞

専 門 教 育 科 目

科目名	ページ
＜専門教育科目＞	
社会福祉	1
相談援助	2
児童家庭福祉	3
保育原理Ⅰ	4
保育原理Ⅱ	5
社会的養護Ⅰ	6
社会的養護Ⅱ	7
教育原理	8
発達心理学Ⅰ	9
発達心理学Ⅱ	10
教育心理学	11
臨床心理学	12
子どもの保健Ⅰ	13
子どもの保健Ⅱ	14
子どもの食と栄養	15
家庭支援論	16
保育内容総論Ⅰ	17
保育内容総論Ⅱ	18
保育内容（健　　康）	19
保育内容（人間関係）（1 年）	20
保育内容（人間関係）（2 年）	21
保育内容（環　　境）	22
保育内容（言　　葉）	23
保育内容（表　　現）	24
保育内容（身体表現）	25
保育内容（造形表現）	26
乳児保育Ⅰ	27
乳児保育Ⅱ	28
障害児保育	29
社会的養護内容	30
保育相談支援	31

科目名	ページ
音楽Ⅰ（通論）	32
音楽Ⅰ（声楽）	33
音楽Ⅰ（器楽）	34
音楽Ⅱ（器楽・表現）-器楽-	35
音楽Ⅱ（器楽・表現）-表現-	36
基礎造形	37
造形	38
造形特論	39
体育	40
遊びと運動	41
国語	42
教師論	43
幼児理解と教育相談	44
教職実践演習(幼稚園)	45
教育媒体の研究	46
保育指導法	47
教育課程概論	48
教育実習の研究	49
教育実習	50
保育実習指導Ⅰ-1	51
保育実習指導Ⅰ-2	52
保育実習Ⅰ-1	53
保育実習Ⅰ-2	54
保育実習指導Ⅱ	55
保育実習Ⅱ	56
健康教育演習Ⅰ	57
健康教育演習Ⅱ	58

授業科目	社会福祉	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 社会の状況を積極的に受け入れる柔軟な感性を持つために、現代社会における社会福祉の意義や基本事項を理解し、最新の知見を導き出し、適切な判断を下すことができるようになる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の動向と課題について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。 ＜到達目標＞ 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解することができる。 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解することができる。 社会福祉の制度や実施体系、利用者保護にかかわる仕組み及び動向と課題について説明することができる。		

授業の計画		
	1	本授業の概要、保育における社会福祉　・日本の人口動向　・生活と社会福祉 ・保育と社会福祉　・社会福祉を学ぶ姿勢
	2	現代社会における社会福祉の意義①　社会福祉の概念と理念
	3	現代社会における社会福祉の意義②　社会福祉の歴史的変遷
	4	社会福祉と児童家庭福祉①　社会福祉の分野としての児童家庭福祉 児童の人権・権利擁護と社会福祉
	5	社会福祉と児童家庭福祉②　家庭支援・子育て支援と社会福祉
	6	社会福祉の制度と実施体系①　・社会福祉の制度と体系　・社会福祉行財政と実施機関 ・社会福祉施設
	7	社会福祉の制度と実施体系②　・社会福祉の専門職など　・社会保障および関連制度 ○第一種社会福祉事業と第二種社会福祉事業についてのレポート
	8	社会福祉における相談援助①　・相談援助の概要　・相談援助の具体的展開 ・過疎地の保育所活動
	9	社会福祉における相談援助②　・子ども虐待と予防と対応 ○第一種社会福祉事業と第二種社会福祉事業についてのフィードバック
	10	社会福祉における相談援助③　・障害のある子どもとその保護者への支援
	11	社会福祉における相談援助④　・子育て支援ルームの運営
	12	社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み　・情報提供と第三者評価 ・使用者の権利擁護と苦情解決
	13	社会福祉の動向と課題①　・少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
	14	社会福祉の動向と課題②　・保育・教育・療育・保健・医療等との連携ネットワーク ・社会福祉の国際化
	15	今後の社会福祉の展望
	16	試験

授業の方法	教科書とプリントを使用し、講義形式で行う。テーマによっては、意見や感想を求める場合もあるので、課題意識を持って授業にのぞむこと求める。課題によってはディスカッションも取り入れていく。
テキスト	新保育士養成講座編纂委員会編　改定２版 新 保育士養成講座 第４巻 「社会福祉／社会福祉と相談援助」（全社協出版） 「小六法編集委員会」編　２０１７年度版「保育福祉小六法」（みらい）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験７０％　レポート１０％　授業への取り組み２０％
授業時間外に必要な学習	教科書を事前に読んでくること。　予習１時間３０分 プリントを見て基本的な用語を説明できるようにする。及び復習演習問題を行う　復習２時間３０分
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時　祐東研究室
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の説明事項を守ること。

授業科目	相談援助	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育士として社会の状況を積極的に受け入れるために、相談援助の基本的事項を理解し、最新の知見を導きだし、適切な判断ができるようになる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深め、相談援助の方法を的確に判断し活用できるようになる。 ＜到達目標＞ 相談援助の概要、方法と技術、具体的展開について理解することができる。 保育におけるソーシャルワークと事例分析を通して対象への理解を深め、ソーシャルワーク活用することができる。 社会資源を理解し、活用できるようにする。		
授業の計画	1	本授業の概要、相談援助の概要①　・相談援助の意義　・相談援助の機能　・相談援助の理論	
	2	相談援助の概要②　・社会福祉とソーシャルワーク　・保育とソーシャルワーク	
	3	相談援助の方法と理解　・相談援助の対象　・相談援助の過程　・よりよい相談のために	
	4	相談援助の具体的展開①　・個人に対する援助技術	
	5	相談援助の具体的展開②　・個別援助の具体的展開	
	6	相談援助の具体的展開③　・ケースワークとカウンセリングの関係他	
	7	相談援助の具体的展開④　・小集団を活用した援助	
	8	相談援助の具体的展開⑤　・グループワークの諸原則と進め方	
	9	記録・連携・協働①　・記録と評価　・関係機関との連携の具体的展開	
	10	記録・連携・協働②　・多様な専門職との連携　・社会資源の活用・調整・開発	
	11	「けんか・かみつき」の事例のグループ学習	
	12	「けんか・かみつき」の事例のフィードバック 「養護問題と相談援助（父親の暴力）」の事例のグループ学習	
	13	「養護問題と相談援助（父親の暴力）」の事例のフィードバック 「育児不安を抑え込む母親～障害の受容・容認をめぐって」の事例検討	
	14	「育児不安を抑え込む母親～障害の受容・容認をめぐって」の事例のフィードバック 「孤立した子育て」の事例検討	
	15	「孤立した子育て」の事例の評価フィードバック 今後における相談援助の展望	
	16		
授業の方法	授業(視聴覚機器を活用して行う)・演習・グループディスカッション		
テキスト	小林育子・小舘静枝・日高洋子著「保育者のための相談援助」　（萌文書院）		
参考文献	随時紹介		
評価方法	レポート７０％　事例検討１０％　授業への取り組み１５％　グループ活動への参加度５％		
授業時間外に必要な学習	教科書を事前に読んでくること。　予習３０分 学んだ内容について、保育現場で行かせるよう具体化する。　復習３０分		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時		
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の説明事項を守ること。		

授業科目	児童家庭福祉	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 社会の状況を積極的に受け入れる柔軟な感性を持つために、現代社会における児童家庭福祉の意義を理解し、最新の知見を導き出し、適切な判断を下すことができるようになる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、児童家庭福祉と保育との関連性について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。 ＜到達目標＞ 児童家庭福祉の意義及び歴史的変遷について理解することができる。 児童家庭福祉と保育との関連性及び人権について理解することができる。 児童家庭福祉の制度や実施体系等、及び現状の課題、動向と展望について説明することができる。		

授業の計画		
	1	本授業の概要、子ども家庭福祉の今を学ぶ前に　①子ども家庭福祉とは　②児童家庭福祉の視点 ③保育者として 児童家庭福祉行財政と実施機関　②児童家庭福祉の実施機関と施設
	2	児童と家庭を取り巻く現状　①子どもと家庭の現状　②人口構造の変化　③未婚化・晩婚化の進行 ④養育状況　⑤家族・社会・地域の変容
	3	子どもの権利　①子どもの権利保障の歴史　②わが国の子どもの権利保障 ③子どもの権利を護る取り組み
	4	児童家庭福祉の歴史　①イギリスの児童家庭福祉　②アメリカの児童家庭福祉 ③日本の児童家庭福祉
	5	児童家庭福祉の制度と法体系　①児童福祉法　②児童家庭福祉に関係する法律
	6	児童家庭福祉行財政と実施機関　①児童家庭福祉の行財政 子育て支援サービスと児童の健全育成　①少子化対策の必要性 ②エンゼルプランから子ども・子育てビジョンへ　③子育て支援サービス　④健全育成施策
	7	母子保健サービス　①母子保健の理念　②母子保健サービスの実施と体系 ③母子保健の取り組み
	8	保育サービス　①保育所と待機児童　②保育サービス
	9	児童虐待とＤＶ　①児童虐待　②ＤＶ　　課題レポート「オレンジリボン運動について」
	10	社会的養護　①社会的養護とは　②代替的養護　③社会的養護の状況と今後
	11	ひとり親家庭への福祉　①ひとり親家庭の現状と生活状況　②ひとり親家庭福祉サービスの概要
	12	障がいのある子どもの福祉　①新たな福祉観と「障害」観　②障害児の定義と現状 ③障害児への定義と現状　④経済的支援　課題レポートのフィードバック
	13	情緒障害・少年非行問題　①情緒障害　②少年非行
	14	児童家庭福祉の専門職と連携　①児童家庭福祉に携わる専門職　②児童家庭福祉行政機関に携わる専門職　③児童家庭福祉関連機関との連携
	15	児童家庭福祉の専門職と連携　④児童家庭福祉の専門性　⑤関連機関との連携の重要性と留意点 講義のまとめ
	16	試験

授業の方法	教科書とプリントを使用し、講義形式で行う。テーマによっては、意見や感想を求める場合もあるので、課題意識を持って授業にのぞむこと求める。課題によってはディスカッションも取り入れていく。
テキスト	櫻井奈津子編「学ぶ・わかる・みえる　シリーズ保育と現代社会　『保育と児童家庭福祉』」（(株)みらい）
参考文献	「小六法編集委員会」編　２０１６年度版「保育福祉小六法」（みらい）　随時紹介
評価方法	試験７０％　レポート１０％　授業への取り組み２０％
授業時間外に必要な学習	教科書を事前に読んでくること。　予習１時間３０分 プリントを見て基本的な用語を説明できるようにする。及び復習演習問題を行う　復習２時間３０分
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時　祐東研究室
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の授業での説明事項を守ること。

授業科目	保育原理Ⅰ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	有田　尚美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・保育についての基礎・基本を理解し、保育に対する必要な知識を身に付け保育のよりよいあり方について考えることができるようになる。 ＜到達目標＞ ・保育の基本ついて理解し、保育における子ども理解について述べることができるようになる。 ・保育の制度と現状、歴史について基礎的な知識を習得し、日本における保育について説明することができる。 ・保育の理念・内容・方法について説明することができる。		
授業の計画	1	保育の基本となることを捉える	
	2	変化する社会の中で求められる保育・教育のあり方、「保育」とは何か	
	3	子どもとともに歩むこと、子どもの最善の利益と保育	
	4	保育の対象と場、変化する社会に対応する保育	
	5	子どもをみる「まなざし」、子どもの行為の「意味」を探る	
	6	「発達」のさまざまなとらえ方と保育所保育指針・幼稚園教育要領における発達のとらえ方	
	7	保育の中で捉える「発達」のプロセス、「子ども観」「保育観」と保育	
	8	保育所と幼稚園、認定こども園、わが国の保育政策の動向	
	9	幼稚園教育要領・保育所保育指針について	
	10	保育所・幼稚園の設備に関する基準と保育施設環境	
	11	諸外国における保育制度や西欧における保育施設の誕生と発展	
	12	日本における保育施設の誕生と発展	
	13	日本の保育内容の変遷と発展、現代の乳幼児に求められる保育内容	
	14	保育内容の基本的な考え方、ねらいと内容・領域の考え方、養護的な内容	
	15	遊びと生活、保育方法の基本的な考え方	
	16	試　験	
授業の方法	講義		
テキスト	「よくわかる　保育原理」第４版　森上史朗・大豆生田啓友編（ミネルヴァ書房）		
参考文献	「幼稚園教育要領解説」　文部科学省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」　厚生労働省（フレーベル館）		
評価方法	授業態度（40%）　試験（60%）		
授業時間外に必要な学習	予習：事前に当該時間の学習箇所を確認し、教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容を復習し、自分の考えをまとめておくこと。 （予習・復習時間　4時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 13 時 30 分－14 時 30 分		
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。		

授業科目	保育原理Ⅱ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	有田　尚美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・「保育原理Ⅰ」をふまえ、保育に対する必要な知識を身に付け保育のよりよいあり方について考えることができるようになる。 ＜到達目標＞ ・保育の計画と評価を関係づけ、指導計画の実際を踏まえた保育について説明ことができる。 ・保育者の専門性について理解し、子育て支援や多様な子どもの保育を踏まえ保育者に求められることについて説明する事ができる。 ・保育の現状と課題について理解し説明することができる。		

授業の計画		
	1	保育の環境と乳幼児期にふさわしい生活の展開
	2	遊びによる総合的な保育、発達の個人差に応じた保育
	3	個と集団を活かした生活、保育形態と保育方法
	4	計画をたてることの意味、長期計画の作成・短期計画の作成
	5	保育における記録と評価
	6	3 歳未満児の指導計画の実際・3 歳以上児の指導計画の実際
	7	職業としての保育者の資格制度と専門性
	8	子どもや保護者とのかかわりの中で求められるもの
	9	保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と省察・研修
	10	子育て家庭の困難状況とその背景と子育て支援
	11	家庭支援とは、地域子育て支援センターの役割
	12	健康と安全に関する留意事項（乳児保育への対応・延長や夜間におよぶ子どもの保育）
	13	特別な支援を必要とする子どもと保護者への対応（虐待などへの対応･障害のある子どもの保育）
	14	保育所・幼稚園・認可外保育施設の現状と保育の質と評価
	15	連携をめぐる課題（幼保の連携・幼小の連携・家庭地域の連携）
	16	試験

授業の方法	講義　　学生への質問
テキスト	「よくわかる保育原理」第４版　森上史朗・大豆生田啓友編（ミネルヴァ書房）
参考文献	「幼稚園教育要領解説」　　文部科学省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」　厚生労働省（フレーベル館）
評価方法	授業態度（40%）試験（60%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前に当該時間の学習箇所を確認し、教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容を復習し、自分の考えをまとめておくこと。　（予習・復習 4 時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 13 時 30 分－14 時 30 分
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。

授業科目	社会的養護Ⅰ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 社会の状況を積極的に受け入れる柔軟な感性を持つために、現代社会における社会的養護について理解し、最新の知見を導き出し、適切な判断を下すことができるようになる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護、制度や実施体系、その他について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。 ＜到達目標＞ 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利について理解し説明することができる。 社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護及び自立支援等、現状と課題について理解し説明することができる。		

授業の計画		
	1	本授業の概要、社会的養護の定義と理念　①社会的養護の定義　②社会的養護の機能と基本的方向性 ③社会的養護の理念と基本原理
	2	社会的養護の歴史　①西洋における歴史　②日本における歴史
	3	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護　①児童家庭福祉と社会的養護の関連性 ②児童の権利擁護と社会的養護
	4	児童の権利擁護と社会的養護　①児童の権利擁護の規定　②児童の権利擁護の具体的取り組み
	5	社会的養護の制度と法体系　①社会的養護と児童福祉法　②児童福祉法以外の法理と厚生労働省 ③社会的養護にかかわるその他の法令・通達
	6	社会的養護の仕組みと実施体系　①児童福祉の実施機関　②児童福祉施設
	7	家庭養護と施設養護　①児童養護の分類　②家庭養護　③施設養護と家庭的養護 社会的養護の専門性　①専門職による支援　②配置される支援　③専門職の課題
	8	施設養護の基本原理　①施設における人権の擁護　②施設養護におけるグループ・ダイナミクス ③施設養護における親子関係の調整
	9	施設養護の実際　①家庭に代わって子どもたちを育む施設養護 ②児童養護施設における保育実践　　課題レポート「Ａさんの作文」
	10	施設養護とソーシャルワーク①　・施設養護とソーシャルワークの関連性 ・施設養護の実際　１ケースワークの実践
	11	施設養護の実際　１ケースワークの実践のフィードバック 施設養護とソーシャルワーク②　・施設養護の実際　２グループワークの実践
	12	施設養護の実際　２グループワークの実践のフィードバック 専門職の倫理の確立　①専門職の倫理　②倫理綱領　③専門職の倫理の課題施設等の運営管理 ①施設等の運営　②施設等の管理　③施設運営にかかわる法令等
	13	被措置児童等の虐待防止　①制度化　②虐待　③虐待の対応　④虐待防止に向けた取り組み等
	14	社会的養護と地域福祉①　・地域福祉の概念と社会的養護　・地域における社会的養護の実践 ・地域福祉における社会的養護の課題
	15	社会的養護と地域福祉②　・地域福祉における社会的養護の課題
	16	試験

授業の方法	教科書とプリントを使用し、講義形式で行う。テーマによっては、意見や感想を求める場合もあるので、課題意識を持って授業にのぞむこと求める。課題によってはディスカッションも取り入れていく。
テキスト	井村圭壮・相澤譲治編著「保育実践と社会的養護」（勁草書房）
参考文献	「小六法編集委員会」編　２０１７年度版「保育福祉小六法」（みらい）　随時紹介
評価方法	試験７０％　レポート１０％　授業への取り組み２０％
授業時間外に必要な学習	教科書を事前に読んでくること。　予習１時間３０分 プリントを見て基本的な用語を説明できるようにする。　復習２時間３０分
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の授業での説明事項を守ること。

授業科目	社会的養護Ⅱ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、社会的養護Ⅰ（１年次履修）で学んだことをさらに発展させ、実際の地域社会において社会的養護がどのように機能しているかについて理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。 ＜到達目標＞ 就学時引き継ぎシート・支援引き継ぎシートについて理解し、個別の教育支援計画が作成できる。 社会的養護の現状の課題を踏まえて、児童相談所の機能を理解し、施設職員の専門性や保育士の役割について説明することができる。 児童福祉施設における教材教具やソーシャルスキルトレーニングカードを作成することできる。		

授業の計画		
	1	本授業の概要 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価
	2	発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ（高知県） ①就学時引き継ぎシート・支援引き継ぎシート ②個別の教育支援計画
	3	発達障害等のある幼児児童生徒の支援をつなぐ ③高知県以外の「就学時引き継ぎシート・支援引き継ぎシート」「個別の教育支援計画」
	4	個別の支援計画の作成①グループ討議　事例分析に基づく支援計画の在り方
	5	個別の支援計画①の発表及び評価
	6	個別の支援計画の作成②グループ討議　事例分析に基づく支援計画の在り方
	7	個別の支援計画②の発表及び評価
	8	障がいに応じた教材教具作りと活用の仕方①
	9	障がいに応じた教材教具作りと活用の仕方②
	10	発達障がい児の早期発見と対応①　チェックリスト等について
	11	発達障がい児の早期発見と対応②　ソーシャルスキルトレーニングの手法について
	12	高知県における児童相談所の業務①　児童相談所の概要と業務事業の実施状況
	13	高知県における児童相談所の業務②　統計資料からみる高知県の福祉の現状
	14	高知県における児童相談所の業務③　虐待アセスメントシートの活用
	15	高知県における児童相談所の業務④　紀要　今後の社会的養護の展望
	16	

授業の方法	資料を使用し、講義形式で行う。テーマによっては、意見や感想を求める場合もあるので、課題意識を持って授業にのぞむこと求める及びディスカッションも取り入れていく。
テキスト	随時紹介
参考文献	随時紹介する。児童相談所の関係資料は、高知県の児童相談所の資料を使用する。 個別の支援計画及び個別の移行支援計画は、高知県教育委員会の様式を使用する。
評価方法	レポート６０％　発表及び作成資料２０％　授業への取り組み２０％
授業時間以外に必要な学習	渡されたプリントを事前に読んでくること。　予習１時間３０分 学習内容を復習して、主な事項について説明できるようにする。　復習２時間３０分
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時　祐東研究室
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の説明事項を守ること。

授業科目	教育原理	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	浜田　幸作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 教育活動の基本的な原則の検討や教育実践を通して、教育の本質の理解を深め、教師に必要とされる公教育の理念と制度、教育課程の意義、教育に関する歴史及び思想についての基礎的な知識を習得し、教育活動に従事する際に必要と思われる教育の原理を理解する。 ＜到達目標＞ ・教育について基礎的概念や思想、学校の制度、子どもをめぐる諸思想や諸問題などを理解することができる。 ・現代の教育問題について主体的に考察し、よりよい教育のあり方を探究することのできる力を獲得することができる。		

授業の計画		
	1	授業の目的と計画について
	2	教育とは（教育とは何か・成長と教育・教育の目的）
	3	日本国憲法と教育基本法（教育を受ける権利、学校教育の目的、内容　　等）
	4	日本の教育の歴史（近代学校の成立・近代学校の制度・現代社会における学校教育の課題）
	5	教育観とこども観の変遷（近代日本までの教育理論・大正、昭和期における幼児教育理論）
	6	教育観と子ども観の変遷（教育観と子ども観の返還・世界の幼児教育）
	7	保育を取り巻く制度とその変遷１（日本の教育制度・教育と福祉の法規）
	8	保育を取り巻く制度とその変遷２（教育行政・虐待と子どもの人権）
	9	保育内容の変遷１（幼稚園規則による保育・保育内容の変遷）
	10	保育内容の変遷２（幼稚園教育要領と保育所保育指針）
	11	教育の実践（教育の目的と目標・教育の内容・教育の方法・教育の計画と評価）
	12	子どもの発達と保育
	13	保育と学び（学ぶということ・教えることと学ぶこと）
	14	生涯学習（生涯学習の基礎・生涯学習社会と学校教育・生涯学習社会における保育者の役割）
	15	幼児保育における教育原理の役割と実践への適用
	16	試験

授業の方法	教科書とプリントを使用し講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。また、双方向性の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていく。
テキスト	「教育原理」小田豊ほか編著（光生館）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験（60%）、授業への取り組み・レポート（40%）から評価する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前９時～10 時
授業時間外に必要な学習	予習：事前にテキストの該当箇所を事前読んでおくこと。 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。（予習・復習合計４時間）
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守する。

授業科目	発達心理学Ⅰ	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	吉村　　斉		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学生は、愛情に満ちた豊かな人間性を獲得した保育者として活躍するため、子どもの発達理論を理解し、その知識を保育に生かすために心がけるべき事項を説明できることを目的とする。 ＜到達目標＞ 子どもの発達の特徴及び成長の過程を踏まえて基礎理論を理解し、保育への活用方法の具体化とその意義を説明することができる。		

授業の計画		
	1	発達心理学Ⅰを学ぶ意味（テキストp.1～10、プリントNo.1）　授業改善に向けた計画 子どもと大人のちがい　発達理解の意義　保育との関係
	2	発達の捉え方（テキストp.11～21、プリントNo.2） 遺伝と環境、発達段階、発達研究
	3	胎児期・乳児期の発達（テキストp.22～33、プリントNo.3） 新生児の特徴　反射　模倣　能動性　選好注視
	4	愛着形成と家族の移行（テキストp.34～46、プリントNo.4） 初期経験　愛着　家族関係
	5	遊びと認知発達（テキストp.47～59、プリントNo.5） 遊びの発達と意義　認知発達　象徴機能　中心化　アニミズム　保存の概念
	6	ことばとコミュニケーションの発達（テキストp.60～72、プリントNo.6） ことばの発達　共同注意　言語機能　コミュニケーションのひろがり
	7	自己と情動の発達（テキストp.73～85、プリントNo.7） 情動　自己形成　他者理解
	8	人の心の理解と仲間関係の発達（テキストp.86～97、プリントNo.8） ふり遊び　心の理論　自己主張・自己統制　脱中心化　発達の最近接領域
	9	道徳性と向社会的行動の発達（テキストp.98～109、プリントNo.9） 道徳性の発達　善悪の判断　向社会的行動
	10	学級での育ち（テキストp.110～120、プリントNo.10） 小１プロブレム　メタ認知の発達　認知スタイル　友人関係　ソシオメトリー
	11	アイデンティティの形成に向けて（テキストp.121～134、プリントNo.11） 身体の発達　発達加速現象　親子関係・友人関係　心理的離乳　自我同一性
	12	成人期から老年期へ（テキストp.135～148、プリントNo.12） 社会化　ライフコースの多様化　連帯感覚・生産性　更年期障害　統合性
	13	発達障害の理解（テキストp.149～160、プリントNo.13） 発達検査・知能検査　　発達障害の主な種類と特徴　学習障害　特別支援教育
	14	発達・家族支援とカウンセリング（テキストp.161～174、プリントNo.14） 保護者とのかかわり　発達支援　家族支援　自我の芽生え　発達障害　虐待
	15	発達心理学を学ぶ意味（プリントNo.1～14、確認しよう） 生涯発達の捉え方
	16	試　験

授業の方法	テキストとプリントを使用し、講義形式で行う。テーマに基づいて討論し発表することもある。
テキスト	「新・プリマーズ　発達心理学」無藤隆ほか編著　（ミネルヴァ書房）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験60%、授業への取組40%。 初回に配布する「発達心理学Ⅰ・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。
授業時間外に必要な学習	予習：テキスト・プリントで該当する部分とプリントの「確認しよう」を読む（2時間）。 復習：プリントの「確認しよう」について説明できるようにする（2時間）。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日午後4時－6時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、および授業１回目に説明する事項を厳守すること。

授業科目	発達心理学Ⅱ	授業の方法・単位	演習２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	吉村　　斉		
授業の目的・テーマ	＜授業の目的＞ 学生が、最新の教育・保育理論を備えた保育者としてさまざまな研究論文から情報を収集し、研究成果を保育実践と照らし合わせるための知識と洞察力をつけることを目的とする。 ＜到達目標＞ 保育現場が抱える問題を例に挙げて、その対処法を検討することによって、発達理論と実践の関連を説明することができるようになる。次に、実際に幼稚園で調査を実施し、データ分析を行って結果の考察を行うことによって、研究レポートをまとめることができる。		

授業の計画		
	1	日常生活における発達心理学　　新聞記事から発達心理学を考える　　授業改善に向けた計画
	2	テレビ番組に見られる発達心理学の理論①　　中心化、愛着
	3	テレビ番組に見られる発達心理学の理論②　　グループによる研究発表
	4	テレビ番組に見られる発達心理学の理論③　　グループによる研究発表
	5	日常生活の出来事・社会的事件の考察　　虐待、自己愛傾向
	6	育児に悩む親の現状（テキストp.11～36）　　悩むことは当然　しかしその対応は？
	7	理論に悩む親（テキストp.　37～60）　　発達の理論化とは
	8	数値化の意味と裏を読む（テキストp.61～82）数字の意味を理解する
	9	発達理論の限界（テキストp.97～115）　　正しい利用方法とは？
	10	発達障害と子育て支援①　発達障害という多様性
	11	発達障害と子育て支援②　多様性を力に変える子育て
	12	発達障害の理解と対応　　児童養護施設での事例を通して
	13	近年の発達心理学の着目点：高知県内保育職公務員試験問題より探る①
	14	近年の発達心理学の着目点：高知県内保育職公務員試験問題より探る②
	15	近年の発達心理学の着目点：高知県内保育職公務員試験問題より探る③
	16	近年の発達心理学の着目点：高知県内保育職公務員試験問題より探る④
	17	「心の理論」と発達　　信念と願望の推論
	18	保育へ発達心理学の研究を活かす視点（テキストp.83～96）
	19	研究準備①　　研究計画の立案　　問題設定と明確化　　先行研究の調べ方
	20	研究準備②　　研究計画の具体化　　方法の検討、結果の予想
	21	研究準備③　　調査実施の準備　　材料の作成、模擬実験・予備調査
	22	ガイダンス　　研究計画を確認する　　調査の打ち合わせ　　仮説の精錬
	23	仮説の精錬
	24	調査の実施①　４歳児対象　幼稚園で行う
	25	調査の実施②　５歳児対象　幼稚園で行う
	26	資料の整理　コード化を中心に行う
	27	コンピュータによるデータ分析
	28	分析結果の考察①
	29	分析結果の考察②　　グループ発表
	30	研究発表
	31	

授業の方法	教科書・資料に基づいた討論と発表、および調査の実施と分析を経て結果の考察を行う。
テキスト	「子育てに悩んだ時の心理学」吉村斉（岩崎電子出版）
参考文献	随時紹介
評価方法	レポート30%、発表態度20%、調査やグループ活動への参加態度30%、授業態度20%。
授業時間外に必要な学習	予習：新聞やニュース等から子どもの発達と保育の動向を整理する。 復習：学習内容について「自分が保育者なら」の観点から活用方法を具体化する。 （予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日午後４時－６時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、および授業１回目に説明する事項を厳守すること。なお、発達心理学Ⅰを履修済であること。

授業科目	教育心理学	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	吉村　　斉		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学生が、教育心理学の理論と実践の関連を理解することで、最新の教育・保育理論を備えた保育者として多様な問題に対応できる基礎知識・態度を身につけることを目的とする。 ＜到達目標＞ 学生が、教育心理学に関する基礎理論や研究方法を理解し、子どもの経験や学習過程の特徴、および発達援助の意義を説明することができる。		

授業の計画		
	1	教育心理学について（テキストp.1～13、プリントNo.1）　授業改善に向けた計画 子ども理解における発達の理解　発達と学習　環境としての保育者と子どもの発達
	2	保育と教育心理学（プリントNo.2） 発達状況と指導案作成
	3	平均値の差の検定及び統計解析（プリントNo.3） 平均値の検定　統計的分析と研究論文からの最新情報の収集
	4	教育心理学が関係すると思われる主な事例（テキストp.18～21、プリントNo.4） 子どもの生活と遊び　来談者中心療法　肯定的関心　場面緘黙
	5	教育心理学の研究法（テキストp.85～89、プリントNo.5） 教育実践と教育心理学の研究法　観察の種類　妥当性・信頼性
	6	学力（テキストp.31～40、プリントNo.6） 学力の定義　レディネス　動機づけ　原因帰属　子どもの遊びと学び　学習性無力感
	7	学習活動（テキストp.26～29・p.41～54、No.7） プログラム学習　発見学習　有意味受容学習　適正処遇交互作用　幼児の記憶
	8	個人差（テキストp.22～25・p.77～84、プリントNo.8） パーソナリティ理論　知能検査　自己の主体性の形成と発達援助
	9	教育評価（テキストp.55～63、プリントNo.9） 教授－学習過程　テストの妥当性・信頼性　時期からみた教育評価　基準からみた教育評価
	10	教師・保育者と子どもとの関係（テキストp.62、p.65～75、プリントNo.10） ピグマリオン効果　勢力　リーダーシップ　発達援助
	11	遊びと子ども集団（テキストp.9～14、プリントNo.11） 協同遊び　仲間関係　創造性　社会的コンピテンス　ギャング集団　欲求不満耐性　防衛機制
	12	特別支援教育（テキストp.91～94・p.98～103、プリントNo.12） 問題行動　不適応症状　気になる子どもへの対応と支援　発達障害
	13	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（テキストp.1～15・p.94～98、プリントNo.13） 学習障害　保幼小中連携の重要性　社会的スキル　不登校　学級崩壊　いじめ　自我の確立
	14	自己主張・自己統制（テキストp.66～67、プリントNo.14） 自己制御能力　向社会的行動　注意の制御　発達の課題に応じた援助やかかわり
	15	教育者／保育者のあり方（テキストp.98～103、プリントNo.15） 保育者の悩みと期待　保護者との関係　現代社会における子どもの発達と保育の課題
	16	試　験

授業の方法	テキストとプリントを中心に質疑応答を交えて進行する。テーマに基づいて討論し発表することもある。
テキスト	「保育のためのやさしい教育心理学」高村和代ほか著　（ナカニシヤ出版）
参考文献	随時紹介
評価方法	試験60%、授業への取組40%。 初回に配布する「教育心理学・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。
授業時間外に必要な学習	予習：テキストとプリントの該当部分を予め読むとともに、新聞やニュース等から日常生活との関連を整理すること。 復習：プリントの「確認しよう」について説明できるようにすること。予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日午後４時－６時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載されている内容、および授業１回目に説明する事項を厳守すること。

授業科目	臨床心理学	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	金山　佐喜子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 臨床心理学の基本的知識を身につけ、体験学習を通して理解を深める。 ＜到達目標＞ 様々な心理療法を手がかりに、自己理解を深めることができる。		

授業の計画		
	1	臨床心理学の基礎
	2	三大療法①　精神分析
	3	三大療法①　精神分析　体験学習
	4	三大療法②　行動療法
	5	三大療法②　行動療法　体験学習
	6	三大療法③　来談者中心療法
	7	三大療法③　来談者中心療法　体験学習
	8	家族療法
	9	解決志向アプローチ
	10	解決志向アプローチ　体験学習
	11	芸術療法
	12	芸術療法　体験学習
	13	カウンセリングの技法
	14	発達障害の理解
	15	子どもにかかわる相談機関
	16	リレーションづくり
	17	自己開示と傾聴体験
	18	自己理解と協働作業
	19	リソース探し
	20	カウンセリング演習
	21	事例検討①
	22	事例検討②
	23	事例検討③
	24	事例検討④
	25	事例検討⑤
	26	事例検討⑥
	27	子どもの不適応行動
	28	自己の省察と他者理解
	29	自己の物語を語る
	30	自己理解の深化
	31	

授業の方法	講義、ロールプレイ、グループワーク等
テキスト	必要に応じ、プリントを配布する
参考文献	必要に応じ、その都度指示する。
評価方法	レポート（50%）、授業への参加態度（50%）
授業時間外に必要な学習	人間関係の中で、自己理解、他者理解を深める（予習１時間） 授業内容を理解、実践につとめる（復習１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業中または授業終了後に質問を受け付ける。
履修上の注意事項	授業中にグループでの話し合いや発表の時間を設けるので、積極的に参加すること。

授業科目	子どもの保健Ⅰ	授業の方法・単位	講義・４単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	山本　和代		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 本授業では、子どもの健全な心身の発達を図るとともに、子どもを取り巻く環境に配慮し、家族や地域の子育ての支援もできるようになる基礎的知識を身につけることを目的とする。 ＜到達目標＞ 1. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について理解できる。 3. 救急時の対応や事故防止、安全教育の在り方について理解できる。 4. 小児保健上の諸問題を踏まえた教育活動や家庭や地域への支援と連携の在り方について理解を深めることができる。		

授業の計画		
	１	子どもの保健とは①
	２	子どもの保健とは②
	３	子どもの保健とは③
	４	子どもの発育・発達①
	５	子どもの発育・発達②
	６	子どもの発育・発達③
	７	子どもの発育・発達④
	８	時期別にみた子どもの特徴と養育の要点①
	９	時期別にみた子どもの特徴と養育の要点②
	１０	時期別にみた子どもの特徴と養育の要点③　課題（１）
	１１	子どもの精神保健①　課題のフィードバック
	１２	子どもの精神保健②
	１３	子どもの栄養と食育①
	１４	子どもの栄養と食育②
	１５	子どもの健康支援①
	１６	子どもの健康支援②
	１７	子どもの健康支援③
	１８	子どもの病気とその予防①
	１９	子どもの病気とその予防②
	２０	子どもの病気とその予防③
	２１	子どもの病気とその予防④　課題（２）
	２２	子どもの環境と安全①　課題のフィードバック
	２３	子どもの環境と安全②
	２４	保護者への支援①
	２５	保護者への支援②
	２６	子どものための保健福祉行政の支援の実際①
	２７	子どものための保健福祉行政の支援の実際②
	２８	小児保健における今日的健康課題と支援の実際①：事例検討
	２９	小児保健における今日的健康課題と支援の実際②：事例検討　課題（３）
	３０	小児保健における今日的健康課題と支援の実際③：事例検討　課題のフィードバック
	３１	試験

授業の方法	講義・視聴覚教材
テキスト	「子どもの保健と支援」平山宗宏（日本小児医事出版社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	毎回のコメントシート、課題・レポート（２０％）、授業への参加度（２０％）、試験（６０％）
授業時間外に必要な学習	予習：事前に配布する文献を購読し、次回講義の概要を把握し疑問点を明確にしておくこと。（２時間） 復習：授業内容について、自分の理解度を確認し知識を整理しておくこと。（２時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日１３：００～１５：３０。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	第一回目の講義で説明する事項を厳守すること。

授業科目	子どもの保健Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	山本　恵美子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 子どもの心身の健全な育成を促進するための知識・技術を習熟し、応用的能力を養い、保育の場で実践できる。 ＜到達目標＞ ①子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画の立案が出来る。 ②子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を理解し､適切な保育が出来る。 ③子どもの疾病についての知識を深め適切な対応ができる。 ④救急時の対応や事故防止、安全管理について理解し実践できる。 ⑤現代社会における子どもの心の健康問題や地域保健活動について説明できる。		

授業の計画		
	1	保健活動の計画及び評価　講義
	2	保健活動の計画及び評価　講義と演習
	3	子どもの保健と環境　講義
	4	子どもの保健と環境　講義
	5	子どもの保健と環境　演習
	6	子どもの保健と環境　演習
	7	子どもの疾病と適切な対応　講義
	8	子どもの疾病と適切な対応　講義
	9	子どもの疾病と適切な対応　講義
	10	子どもの疾病と適切な対応　講義・演習
	11	事故防止及び安全管理　講義
	12	事故防止及び安全管理　講義
	13	事故防止及び安全管理　演習
	14	事故防止及び安全管理　講義
	15	心と体の健康問題と地域保健活動　講義
	16	試験

授業の方法	講義 ppt 教材を交えた演習
テキスト	「子供の保健Ⅱ」　白野幸子著（医歯薬出版）
参考文献	「子どもの保健と支援」平山宗広編（日本小児医事出版社） 「子供の保健Ⅱ」佐藤益子編他（ななみ書房）
評価方法	試験 100%
授業時間外に必要な学習	授業内容に関する情報を収集する。授業の内容を復習し理解を深めること。 予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	電子メールで受け付ける
履修上の注意事項	授業中に質問時間を設けるので積極的に質問すること。 講師からの問いかけには積極的に発言すること。

授業科目	子どもの食と栄養	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	橋村　夏世（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ １．栄養に関する基本的な知識を学ぶ。 ２．子どもの成長段階における食生活について理解する。 ＜到達目標＞ 生命を支える食の重要性を子どもに伝えることができるようになる。 食育の基本を理解し、実践できるようになる。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション　子どもの心身の健康と食生活
	2	子どもの食生活の現状と課題
	3	栄養に関する基本的知識　食事摂取基準
	4	栄養に関する基礎的知識　炭水化物・脂質
	5	栄養に関する基礎的知識　たんぱく質
	6	栄養に関する基礎的知識　ミネラル・ビタミン・水分
	7	食べ物の消化と吸収
	8	子どもの発育・発達の基本
	9	胎児期（妊娠期）・乳児期の食生活
	10	幼児期の食生活
	11	学童期の食生活
	12	生涯発達と食生活
	13	食育の基本
	14	家庭や児童施設における食事と栄養
	15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
	16	中間試験
	17	献立作成と調理の基本　衛生管理①　　中間試験のフィードバック
	18	献立作成と調理の基本　衛生管理②
	19	調理実習　調乳、離乳食、幼児食①
	20	調理実習　調乳、離乳食、幼児食②
	21	調理実習　幼児食①
	22	調理実習　幼児食②
	23	調理実習　　イベント食①
	24	調理実習　　イベント食②
	25	調理実習　　行事食（おせち料理）①
	26	調理実習　　行事食（おせち料理）②
	27	食育の実際　食育のための指導媒体作成、食育だより作成①
	28	食育の実際　食育のための指導媒体作成、食育だより作成②
	29	食育のための指導媒体作成①
	30	食育のための指導媒体作成②
	31	食育実施

授業の方法	講義・実習・演習
テキスト	「最新子どもの食と栄養」飯塚美和子他（学建書院）
参考文献	
評価方法	試験（60%）　食育発表（20%）　レポート（20%）
授業時間外に必要な学習	食と栄養に関する「言語」を理解する。教科書にある資料を読み理解する。 予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に受付ける
履修上の注意事項	配布資料をファイルする　　調理実習時の服装と衛生管理

授業科目	家庭支援論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	川﨑　育郎（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 子どもの健やかな発達に影響を与える家庭や家族は、さまざまな問題を抱える場合がある。 そのような家庭や家族が抱える問題に対してどのような支援が必要なのか、どのように支援するのか理解できるようになる。 ＜到達目標＞ 下記の内容について理解を深める。 ①家庭の意義とその機能　②子育て家庭を取り巻く社会的状況 ③子育て家庭の支援体制　④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携		
授業の計画	1	家族・家庭の意義と機能	
	2	子どもの家族・家庭	
	3	家庭支援の必要性	
	4	子育てにおける養育者の役割	
	5	家庭と子どもの発達	
	6	子どもの人格形成と家庭における人間関係	
	7	子どもの不適応と家庭における人間関係	
	8	子ども虐待について	
	9	男女共同参画社会とワークライフバランス	
	10	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	
	11	子育て支援における関係機関との連携	
	12	要保護児童及びその家庭に対する支援	
	13	保育所における家庭への支援	
	14	保育士等が行う家庭支援の原理　①	
	15	保育士等が行う家庭支援の原理　②	
	16		
授業の方法	①講義　②ビデオ・DVD・ブルーレイ　③その他（プレゼンテーション等）		
テキスト	『児童福祉とカウンセリング』　川﨑育郎著　ドメス出版		
参考文献	必要に応じ、その都度配付する		
評価方法	レポート（90%）、授業内での提出物（10%）		
授業時間外に必要な学習	児童の様々な問題（例：児童虐待など）についての新聞記事などを収集すること。 予習２時間、復習２時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に質問を受付ける		
履修上の注意事項	視聴覚教材（DVD）などを利用した時、感想文を求めるので必ず提出すること。		

授業科目	保育内容総論Ⅰ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	有田　尚美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 子どもの姿から保育を構想していくために、５領域の活動の理解や環境を通して行う教育の考え方、子ども理解、保育者の役割などについて理解し、子どもたちを確かな成長へ導くための保育の展開のあり方について判断できるようになる。 ＜到達目標＞ ・子ども理解と保育内容について事例を通して関係づけ説明することができる。 ・５領域の視点から子どもを捉え、保育を展開するために必要な基礎的な事項について理解し、保育の展開について説明することができる。		

授業の計画		
	1	保育内容総論で学ぶことと保育を計画すること
	2	保育内容の歴史的変遷について学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針の法的根拠や歴史経緯から保育内容を捉える
	3	子どもと保育内容①　子どもの内面理解
	4	子どもと保育内容②　年齢別の事例を通した子どもの発達と生活１
	5	子どもと保育内容③　年齢別の事例を通した子どもの発達と生活２
	6	子どもと保育内容④　子どもを取り巻く環境
	7	子どもと保育内容⑤　年齢別の事例を通した子どもと遊び１
	8	子どもと保育内容⑥　年齢別の事例を通した子どもと遊び２
	9	領域「健康」と保育内容①　安心・安定できる環境
	10	領域「健康」と保育内容②　体を動かしてのびのび遊ぶことや健康安全な生活を送る
	11	領域「人間関係」と保育内容①　一人一人のよさがいきる集団づくり
	12	領域「人間関係」と保育内容②　友だちと一緒が楽しい
	13	領域「人間関係」と保育内容③　保護者との連携
	14	領域「環境」と保育内容①　動植物とのかかわり
	15	領域「環境」と保育内容②　考えたり試したりする
	16	試　験

授業の方法	講義・演習
テキスト	「演習　保育内容総論　あなたならどうしますか？」酒井幸子・守巧編著（萌文書林）
参考文献	「幼稚園教育要領解説」　文部科学省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）
評価方法	受講態度（40%）、テスト（60%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前に当該時間の学習箇所を確認し、教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容を復習し、自分の考えをまとめておくこと。（予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 13 時 30 分－14 時 30 分
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。

授業科目	保育内容総論Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	有田　尚美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育内容総論Ⅰをふまえ、子どもの姿から保育を構想していくために、５領域の活動の理解や環境を通して行う教育の考え方、子ども理解、保育者の役割などについて理解し、子どもたちを確かな成長へ導くための保育の展開のあり方について判断できるようになる。 ＜到達目標＞ ・５領域の視点から子どもを捉え、保育を展開するために必要な基礎的な事項について理解し、保育の展開のあり方について説明することができる。 ・保育者の役割について理解し、援助や連携などについて理解し、保育の展開のあり方について説明することができる。		
授業の計画 1	領域「言葉」と保育内容①　言葉で表現する楽しさ		
2	領域「言葉」と保育内容②　人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことを話し伝え合う		
3	領域「表現」と保育内①　感じる心		
4	領域「表現」と保育内容②　表現する力		
5	領域と保育内容　保育者の専門性①　子どもの気持ちに寄り添う		
6	領域と保育内容　保育者の専門性②　保育内容の総合的な展開		
7	保育者の役割と保育内容　気になる子どもの支援①　子ども理解		
8	保育者の役割と保育内容　気になる子どもの支援②　保護者との連携		
9	保育者の役割と保育内容　保護者との連携①　保護者を支える		
10	保育者の役割と保育内容　保護者との連携②　家庭での子どもの姿と園での子どもの姿		
11	保育者の役割と保育内容　幼保小の連携①　保育所・幼稚園の経験を小学校教育につなぐ		
12	保育者の役割と保育内容　幼保小の連携②　一人一人の育ちを小学校につなぐ		
13	保育者の役割と保育内容　家庭・地域・関係機関との連携①　地域や関係機関とのつながり		
14	保育者の役割と保育内容　家庭・地域・関係機関との連携②　専門機関とのつながり		
15	まとめ		
16	試験		
授業の方法	講義・演習		
テキスト	「演習　保育内容総論　あなたならどうしますか？」酒井幸子・守巧編著（萌文書林）		
参考文献	「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）		
評価方法	授業態度（40%）、テスト（60%）		
授業時間外に必要な学習	予習：事前に当該時間の学習箇所を確認し、教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容を復習し、自分の考えをまとめておくこと。（予習・復習合計１時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 13 時 30 分－14 時 30 分		
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。		

授業科目	保育内容（健康）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	山本　英作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　領域「健康」のうち、幼児の「運動遊び」に関する内容に特に注目する。教育実習前に保育者の指導・援助のポイントを学び、それらを保育の現場で実践して、振り返りができるようになることを目的とする。また、保育者として人命を預かる責任感を身につけるために、安全管理とリスクマネジメントに関する知識・技能・態度を習得する。 ＜到達目標＞ ・講義で取り上げる保育者の指導・援助の要点を具体的に説明することができる。 ・運動遊びの指導実践（ロールプレイ）を通して、お互いに保育技術を高め合うことができる。 ・実習報告と討議を通して、お互いの指導・援助について批評することができる。 ・「幼児安全法」講習を受け、乳幼児に対する一次救命処置の手順を身につけることができる。		

授業の計画		
	1	ガイダンス：「保育内容（健康）」で何を学ぶのか？
	2	講義(1)：「幼児期運動指針」　～幼児期における運動遊びの重要性～
	3	講義(2)：「遊び」にかかわる保育者の指導・援助のポイント
	4	実技(1)：　運動遊びを体験する　～多様な動き、鬼ごっこ等～
	5	実技(2)：　運動遊びを体験する　～ボール遊び、伝承遊び等～
	6	演習(1)：　指導案を書いてみる　課題１：指導案
	7	実技(3)：「戸外遊び」の指導実践（ロールプレイ）と討議　3・4歳児
	8	実技(4)：「戸外遊び」の指導実践（ロールプレイ）と討議　5歳児
	9	実技(5)：「室内遊び」の指導実践（ロールプレイ）と討議　3・4歳児
	10	実技(6)：「室内遊び」の指導実践（ロールプレイ）と討議　5歳児
	11	演習(2)：　指導実践（まとめ）、教育実習における自己課題の明確化　課題のフィードバック
	12	演習(3)：「遊び」に関するエピソードを記述する　課題２：エピソード記述
	13	演習(4)：「遊び」に関するエピソードの報告と討議　報告・討議
	14	演習(5)：「遊び」に関する指導・援助の振り返り　課題のフィードバック
	15	実技(7)：「幼児安全法」講習　課題３：最終レポート
	16	

授業の方法	講義、演習、実技
テキスト	必要に応じてプリント資料等を配布する。
参考文献	「保育内容　健康」榎沢良彦・入江礼子（建帛社） 「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子（萌文書林） 「幼児期運動指針ガイドブック」（文部科学省）等
評価方法	授業への積極的な参加（50%）、レポート等の提出物（50%）
授業時間外に必要な学習	予習：各回のテーマに沿って、幼児の「運動遊び」についての情報収集を行う。（0.5時間） 復習：演習・実技から学んだ指導・援助のポイントをまとめておく。（0.5時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 14:30～16:00 山本（英）研究室
履修上の注意事項	実技には、動きやすい服装・シューズで参加すること。グループワークの取り組みを重視する。

授業科目	保育内容（人間関係）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	吉村　　斉		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学生は、最新の教育・保育理論を備え、実践力があるとともに、愛情に満ちた豊かな人間性を獲得した保育者として活躍するため、保育現場の観察によって得られた事例をもとに、乳幼児期の自立心の育成と人間関係を理解し、知識を深めることを目的とする。 ＜到達目標＞ 子ども同士がかかわる場面において、保育者に求められる役割と子どもの発達の意義を、他領域との関連も交えながら説明することができる。		

授業の計画		
	1	保育内容（人間関係）について（テキストp.28～34、プリントNo.1）　授業改善に向けた計画 幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」について
	2	保育内容（人間関係）のねらい（テキストp.53～60、プリントNo.2） 個の育ち－共同性の育ち　乳幼児期の発達課題　愛着の形成　自己概念
	3	保育内容（人間関係）と社会性の発達（テキストp.35～40・p.61～68、プリントNo.3） 遊び　仲間関係の形成　けんか　自己主張・自己統制　道徳性　向社会的行動
	4	領域「人間関係」と園内の協力体制（テキストp.41～52、プリントNo.4） ティーム保育　精神的回復力（レジリエンス）　多様性
	5	保育の基本と人とのかかわり（テキストp. 107～123、プリントNo.5） 家族関係　地域とのかかわり　発達が気になる子どもへの支援　課題①
	6	保育実践と保育研究（テキストp.107～123、プリントNo.6）　課題①のフィードバック 乳児保育　保育者と子どもの信頼関係　気になる子ども　課題②
	7	集団保育における子ども間関係の形成①（テキストp.85～89、プリントNo.7） 初期の対人関係と仲間関係の芽生え　社会志向行動　課題②のフィードバック
	8	集団保育における子ども間関係の形成②（テキストp.89～92、プリントNo.8） 集団保育の中で育つもの　仲間関係を支える保育者
	9	仲間関係①（テキストp.61～68、プリントNo.9） 社会的コンピテンスの発達　自己制御能力　規則の理解　課題③
	10	仲間関係②（テキストp.92～104、プリントNo.10）　課題③のフィードバック いざこざの発達　援助　イメージの共有　協同的活動
	11	仲間関係③（テキストp. 125～141、プリントNo.11） 性役割　勢力関係　気になる子ども　保育者の役割
	12	自由保育①（テキストp.69～77、プリントNo.12） 自由保育の原則　保育者の役割　自己充実　発達の最近接領域
	13	自由保育②（テキストp.77～83、プリントNo.13） 環境設定　発達を促す援助
	14	自由保育③（テキストp.69～83、プリントNo.14） 自由保育の実際　遊びにおける保育者の役割
	15	領域「人間関係」の専門性と実践の関係（プリントNo.1～14） 発達理論　保育指導
	16	試　験

授業の方法	テキストとプリントを使用し、質疑応答を交えて授業を進める。
テキスト	「新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　保育内容人間関係」小田豊ほか編（北大路書房）
参考文献	幼稚園教育要領解説　文部科学省（フレーベル館） 保育所保育指針解説書　厚生労働省編（フレーベル館）
評価方法	試験60%、授業への取組30%、課題10%。 初回に配布する「保育内容（人間関係）・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。
授業時間外に必要な学習	予習：プリントとテキストの該当部分を熟読し、これまでの学んだ内容との関連を整理する。 復習：学んだ内容について「自分が保育者なら」の観点から事例を考察する。 （予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日午後４時－６時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載されている内容、および授業１回目で説明する事項を厳守すること。

授業科目	保育内容（人間関係）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	吉村　　斉		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学生は、最新の教育・保育理論を備え、実践力があるとともに、愛情に満ちた豊かな人間性を獲得した保育者として活躍するため、保育現場の観察によって得られた事例をもとに、乳幼児期の自立心の育成と人間関係を理解し、知識を深めることを目的とする。 ＜到達目標＞ 子ども同士がかかわる場面において、保育者に求められる役割と子どもの発達の意義を、他領域との関連も交えながら説明することができる。		

授業の計画		
	1	保育内容（人間関係）について（プリントNo.1）　授業改善に向けた計画 幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「人間関係」について
	2	保育内容（人間関係）のねらい（プリントNo.2） 個の育ち－共同性の育ち　乳幼児期の発達課題　愛着の形成　自己概念
	3	保育内容（人間関係）と社会性の発達（プリントNo.3） 遊び　仲間関係の形成　けんか　自己主張・自己統制　道徳性　向社会的行動
	4	領域「人間関係」と園内の協力体制（プリントNo.4） ティーム保育　精神的回復力（レジリエンス）　多様性
	5	気になる子どもとのかかわり（プリントNo.5） 発達障害　子ども理解　支援と対応
	6	保育実践と保育研究（プリントNo.6） 乳児保育　保育者と子どもの信頼関係　気になる子ども　課題①
	7	集団保育における子ども間関係の形成①（プリントNo.7）　課題①のフィードバック 初期の対人関係と仲間関係の芽生え　社会志向行動
	8	集団保育における子ども間関係の形成②（プリントNo.8） 集団保育の中で育つもの　仲間関係を支える保育者
	9	仲間関係①（プリントNo.9） 社会的コンピテンスの発達　自己制御能力　規則の理解　課題②
	10	仲間関係②（プリントNo.10）　課題②のフィードバック いざこざの発達　援助　イメージの共有　協同的活動
	11	仲間関係③（プリントNo.11） 性役割　勢力関係　気になる子ども　保育者の役割
	12	自由保育①（プリントNo.12） 自由保育の原則　保育者の役割　自己充実　発達の最近接領域
	13	自由保育②（プリントNo.13） 環境設定　発達を促す援助
	14	自由保育③（プリントNo.14） 自由保育の実際　遊びにおける保育者の役割
	15	領域「人間関係」の専門性と実践の関係（プリントNo.1～14） 発達理論　保育指導
	16	試　験

授業の方法	プリントを使用し、質疑応答を交えて授業を進める。
テキスト	プリント
参考文献	幼稚園教育要領解説　文部科学省（フレーベル館） 保育所保育指針解説書　厚生労働省編（フレーベル館）
評価方法	試験60%、授業への取組30%、課題10%。 初回に配布する「保育内容（人間関係）・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。
授業時間外に必要な学習	予習：プリントの該当部分を熟読し、これまでの学んだ内容との関連を整理する。 復習：学んだ内容について「自分が保育者なら」の観点から事例を考察する。 （予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日午後４時－６時。その他の時間も随時。
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載されている内容、および授業１回目で説明する事項を厳守すること。

授業科目	保育内容（環境）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	吉村　　斉、有田　尚美、山下　文一（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性と人命を預かる責任感を身につけた保育者として適切な環境を構成する視点を養うため、環境への関わり方について学び、環境を通して行う保育を理解する。 ・社会の諸問題と照らし合わせながら、環境のねらいや内容を理解し、乳幼児の生きる力の育成につながる直接的・具体的な体験ができる保育環境の在り方について理解する。 ＜到達目標＞ ・保育者に必要な専門的知識や基本的技能を活用しながら、子どもが環境に親しみ、興味・関心を抱く環境構成を心がけた指導計画を立案し実践することができる。		

授業の計画		
	1	保育内容（環境）における身近な環境（テキストp.1～12、プリントNo.1、担当：吉村） 幼稚園教育要領、保育所保育指針、法律における領域「環境」の位置づけ
	2	領域「環境」と子どもの発達（テキストp.13～30、プリントNo.2、担当：吉村） 子どもの発達の捉え方　　生活を通した環境とかかわる力の発達
	3	領域「環境」と子どもの発達２（テキストp.31～50、プリントNo.3、担当：吉村） 遊びを通した環境とかかわる力の発達
	4	領域「環境」と子どもの発達３（テキストp.57～67、プリントNo.4、担当：吉村） 人間関係を通した環境とかかわる力の発達　保育環境のあり方
	5	領域「環境」と思考力の発達（テキストp.50～55、プリントNo.5、担当：吉村） 環境への興味　思考過程　児童期との関連
	6	保育内容「環境」と幼児理解（テキストp.70～94 担当：山下） 好奇心と探究心、人的・物的環境の認識、時間・空間の認識・数量・字形・文字・標識の認識
	7	人的環境としての友だち、保育者の特性（担当：山下） 幼稚園教育要領・保育所保育指針、友だち、保育者の人的環境と保育的特性
	8	物的環境としての園具・遊具・素材（担当：山下） 幼稚園教育要領・保育所保育指針、園具・遊具・素材の環境としての基本的な考え方と育つ力
	9	自然環境としての動植物（担当：山下） 幼稚園教育要領・保育所保育指針、環境としての自然と育つ力
	10	日常生活のなかでの興味や関心（担当：山下） 幼稚園教育要領・保育所保育指針、日常生活における環境と育つ力
	11	領域「環境」環境と保育内容(担当:有田) 「環境」からみた道徳性の芽生えを培う指導（テキストp.95～145）
	12	領域「環境」環境と保育内容(担当:有田) 身近な自然環境とのかかわりから感じ育つもの（テキストp.95～101）
	13	領域「環境」環境と保育内容(担当:有田) 砂・土・水にかかわる活動について短期の指導計画を作成する１
	14	領域「環境」環境と保育内容(担当:有田) 砂・土・水にかかわる活動について短期の指導計画を作成する２
	15	領域「環境」環境と保育内容(担当:有田) 砂・土・水にかかわる活動について短期の指導計画を作成する３
	16	

授業の方法	演習
テキスト	『新保育ライブラリ保育の内容・方法を知る保育内容（環境）』　民秋言他編　（北大路書房）
参考文献	『幼稚園教育要領解説』　文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』　厚生労働省　編　（フレーベル館）
評価方法	授業への取り組み（40%）、各担当者によるレポート（60%）
授業時間外に必要な学習	予習：テキストの該当箇所を事前に読んでおく。 復習：学んだ内容を保育指導計画へ反映できるよう指導案に照らして理解する。 （予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	吉村：月曜日午後４時～6時その他も随時 有田：火曜日13時30分～14時30分
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。

授業科目	保育内容（言葉）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	片山　美穂		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育におけることばの重要性を理解する。さらに、子どものことばの発達の助けとなる教材についても理解を深めながら、専門的知識および技能を習得する。 ＜到達目標＞ 　保育におけることばの重要性を、具体例を通して説明できる。 子どものことばの発達の助けとなる教材を使用したり、作ったりすることができる。		

授業の計画		
	1	領域「言葉」概説
	2	ことば遊び１ 準備
	3	ことば遊び２ 発表
	4	ことば遊び３ 発表
	5	ことば遊び４ 発表
	6	絵本・紙芝居１　絵本・紙芝居を読むときのポイント
	7	絵本・紙芝居２　準備
	8	絵本・紙芝居３　準備
	9	絵本・紙芝居４　準備
	10	絵本・紙芝居５　準備
	11	絵本・紙芝居６ 準備
	12	ことばがけ　課題
	13	絵本・紙芝居１ 発表　課題のフィードバック
	14	絵本・紙芝居２ 発表
	15	語り
	16	試　験

授業の方法	演習
テキスト	適宜プリントを配布。
参考文献	文部科学省、「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 厚生労働省、「保育所保育指針解説書」フレーベル館
評価方法	平常時提出物（30%）、発表（20%）、試験（50%）
授業時間外に必要な学習	ことば遊びや絵本等、子どものことばの発達の助けになる教材について、調べたり、読んできたりすること。 子どものことばの発達の助けになる教材について、関連する発展的なことば遊びや絵本等を発展的に調べたり、読んだりすること。　予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日　10:30-12:00
履修上の注意事項	

授業科目	保育内容（表現）	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	末田　光一、竹村　　正、池澤　眞由美		

授業の目的・到達目標

＜授業の目的＞
幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい・内容に添って、各年齢に応じた子どもたちの心情・意欲・態度を育てながら、子どもの感性を豊にするための表現のあり方を、領域「表現」に属する各分野のうち身体活動・音楽及び造形の分野について、演習を通して学ぶ。

＜到達目標＞
表現として、小さな劇作りに挑戦する。（絵本を表現資料の一つと考える）何もないものから形に仕上げていく過程を楽しんで実施する。

Ⅰ　表現に属する分野のうち、身体表現としての小さな劇作りを通して仲間意識、協調性を確認し合い、こどもの世界で遊び、楽しむ事により発生する気持ちを感じる。言葉と言葉の間の取り方、タイミング等、スムーズに実施できるようになる。（池澤　眞由美）

Ⅱ　子どもの音楽表現の特徴を述べることができる。また、子どもの音楽表現力を育成するための指導を子どもの成長発達に応じ工夫することができる。（竹村　正）

Ⅲ　保育の場における造形表現に関する基本的考え方について理解し、説明できる。（末田　光一）

授業の計画

1	授業概要及びグループ割り当　グループ別の話し合い（作業分担）	担当：池澤 ※7号館２階
2	創作劇に適した話を選択する。（絵本などを参考にする。）	
3	選ばれた話しを土台として脚本作り　スタッフとしての仕事の確認、話し合い	
4	創作劇創りの各々の創作学習と実施、練習、話し合い	
5	創作劇創りのための創作学習と実施、小道具作りの話し合い	
6	創作劇創りのための創作学習と実施、小道具作りの実施、音楽	
7	創作劇創り通し練習、話し合い、小道具作りの実施、音楽	
8	創作劇通し練習（グループ全員で）、音楽	
9	創作劇通し練習（グループ全員で）、音楽	
10	作品発表：創作過程及び問題点等の話し合い	
11	保育内容としての音楽表現	担当：竹村 ※ＭＬ教室
12	乳幼児の発達と音楽	
13	子どもの音楽環境	
14	子どもの音楽表現の特徴	
15	手話歌発表	
16	子どもの歌唱(1)	
17	子どもの歌唱(2)	
18	子どもの音遊び・発表	
19	わらべ唄	
20	創作曲発表、まとめ	
21	領域「表現」の絵画製作・造形の基本的とらえ方	担当：末田 ※造形演習室
22	造形表現活動の源泉	
23	幼児造形表現の意義	
24	幼児造形指導の基本的理念	
25	造形表現能力の発達とその背景の概要	
26	各年齢の造形表現能力の発達の実際	
27	造形活動の動機付けの事例とその意味	
28	創作過程の事例とその意味	
29	幼児造形活動における模倣の是非	
30	幼児造形活動への保育者としての視点	

授業の方法	＜池澤＞創作活動、実技	＜竹村＞演習	＜末田＞演習※造形演習室
テキスト	資料プリントを配布する。	『手話によるメッセージソング』 『歌う、弾く、表現する保育者になろう』 資料プリントを配付する。	『保育をひらく造形表現』 槇　英子　著/萌文書林 ・他に資料プリントを配付する。
参考文献			
評価方法	創作劇発表 50%、レポート 50%	平常課題 40%、レポート 60%	レポート 100%
授業時間外に必要な学習	絵本などに今迄以上目を通すようにし、声を出して読む。ストレッチに努力する。予習・復習合計１時間	テキストの指定箇所を予習・授業内容を復習。予習・復習合計　１時間	教科書の指定箇所を予習し、学習内容を復習して理解を深める。予習・復習合計１時間。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週金曜日（13:30～17：00）	水曜　午後１時～3 時	月曜日（13:00～15:00）
履修上の注意事項	動きやすい服装 履修上の注意について１回目の授業で説明する。	１回目の授業で告知する。	履修上の注意については１回目の授業で告知する。

授業科目	保育内容（身体表現）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	池澤　眞由美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　表現体としての自己の身体を確認し、心に感じたものからイメージをふくらませ、それを全身で表現する力を培う。身体表現に大きく影響する可動範囲を広げながらの表現に努める。 ＜到達目標＞ 　身体表現発表での目の位置、立ち姿、バランスの取り方等を意識し、可動範囲の広い大きな表現が出来るよう、また、人前での羞恥心を取り除く努力をしながら伸びやかな身体表現を工夫、実施出来る。		
授業の計画	1	オリエンテーション・授業説明、進め方	
	2	ストレッチ・リラクゼイションの実際、基礎運動の説明	
	3	イメージから起こす身体表現	
	4	動きのスケッチ（１）	
	5	動きのスケッチ（２）（模擬的身体表現）	
	6	イメージをふくらませて表現する	
	7	手具を持って表現する（新聞紙）	
	8	並立の形式を演習	
	9	同時シメトリー形式の演習	
	10	コントラスト形式の演習	
	11	動きのモチーフづくり、フレーズづくり	
	12	グループによるダンス作品	
	13	グループによるダンス作品	
	14	グループによるダンス作品	
	15	グループ創作発表	
	16		
授業の方法	演習		
テキスト	プリント等を配布する。		
参考文献	幼児教育知の探究　表現芸術の世界　萌文書林		
評価方法	実技 50%、レポート 50%		
授業時間外に必要な学習	指導を受けた基礎ストレッチを毎日実施する。 幼児教育知の探究　表現芸術の世界を読破する。　予習・復習合計１時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週金曜日（13：30～17：00）		
履修上の注意事項	受講定員 30 名 動きやすい服装		

授業科目	保育内容（造形表現）	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	末田　光一		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 幼児期の造形表現は子どもの心の成長にとって極めて重要である。この時間は、その造形表現活動の場において適切に指導、援助ができる幼児教育者を目指し、必要な知識について学び、基礎的技能を養う。 ＜到達目標＞ 幼児教育の場で見られる造形表現活動について取り上げ、共同製作も含む実際の実技的体験における試行錯誤の中から、実践に必要なことがらについて理解を深め、基礎的技能を習得することができる。		

授業の計画		
	1	造形表現における理論と実践のあり方
	2	イメージの中の幼児期の自分
	3	造形表現の指導実践に向けての考え方　(1) はじき絵
	4	(2) 型押し絵
	5	(3) フィンガーペインティング
	6	(4) 線香焼きの絵
	7	(5) 割り箸で作る絵
	8	(6) 動いている人
	9	(7) 紙染め
	10	(8) 窓の開いた紙に描く
	11	(9) 偶然の形から
	12	パネル作品共同製作　(1) 構想・準備
	13	(2) 製作
	14	(3) 製作
	15	(4) 製作・展示・省察
	16	

授業の方法	実技演習　　※造形演習室（１号館４階）を使用する。
テキスト	『保育をひらく造形表現』　槇 英子 著／萌文書林 ※資料プリントを配付する
参考文献	
評価方法	実技課題
授業時間外に必要な学習	・授業前：予め指示された課題について明確化し、必要な素材、道具等は必ず準備持参する。 ・授業後：学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計１時間。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日 13：00～15：00
履修上の注意事項	・受講定員　４０名 ・履修上の注意について詳細は１回目の授業で告知する。

授業科目	乳児保育Ⅰ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	明神　紀代子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 乳児保育の必要性を理解し、必要な理論・知識・技術の基本を学ぶ。 ＜到達目標＞ ・乳児期の発達の様子がわかり、保育者のかかわり等を実際の写真や事例を通して理解をする。 ・絵本や紙芝居等を実際に体験することで、技術や方法を身につけ、実践することができる。 ・保護者や地域との連携を学び、保育所のかかえている問題や役割の重要性を説明することができる。		
授業の計画 1	保育所とは、乳児保育とは		
2	乳児保育の意義と乳児保育の歩み		
3	乳児保育の１日と様々な場		
4	乳児の発達と保育内容		
5	乳児の発達と保育①		
6	乳児の発達と保育②		
7	乳児の発達と保育③		
8	愛着関係と自我の育ち		
9	手づくりおもちゃ①		
10	絵本・読んでみよう		
11	紙芝居・読んでみよう		
12	パネルシアター、エプロンシアター		
13	手づくりおもちゃ②		
14	乳児保育の環境		
15	保育所と家庭の連携　／　保護者理解・試験にむけて		
16	試験		
授業の方法	講義、ＶＴＲ、パワーポイントを使って実際の場面を見る。		
テキスト	『乳児の生活と保育』（ななみ書房）		
参考文献	「乳児保育」（青踏社）　「乳児保育」（萌文書林）		
評価方法	試験（80%）　授業態度（10%）　提出物（10%）		
授業時間外に必要な学習	授業の内容を予習復習して理解を深める。予習・復習合計１時間		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に質問を受ける。		
履修上の注意事項	配布プリントは２年後期に使用する為ファイル保存すること。		

授業科目	乳児保育Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	明神　紀代子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 乳児理解を深め、保育を行う上での知識・技術を身につけ、自分の中で整理ができる。 ＜到達目標＞ ・３歳未満児の遊びと生活について理解する。 ・３歳未満児の発達過程を理解し、指導計画を作成して具体的なねらいと内容が理解できる。 ・保育所を取りまくさまざまな問題を通して、保護者との連携の大切さや保育所の役割を説明することができる。		

授業の計画		
	1	乳児保育と保育課程　①
	2	乳児保育と保育課程　②
	3	身体機能の発達と保育①
	4	身体機能の発達と保育②
	5	基本的生活習慣の獲得と保育・食べる
	6	基本的生活習慣の獲得と保育・排泄と眠る
	7	対人関係の発達と保育①
	8	対人関係の発達と保育②
	9	遊びと環境　①
	10	遊びと環境　②
	11	複数担任と担当制について
	12	保護者と共に・特別な配慮を必要とする子どもへの対応
	13	保護者と共に・苦情に対する考え方、対応
	14	保護者理解・連絡帳の書き方
	15	乳児の養育環境と課題・試験にむけて
	16	試験

授業の方法	講義　ＶＴＲ、パワーポイントを使って実際の場面を見る。
テキスト	『乳児の生活と保育』（ななみ書房）
参考文献	「乳児保育」（青踏社）　「乳児保育」（萌文書林）
評価方法	試験（80%）　授業態度（10%）　提出物（10%）
授業時間外に必要な学習	授業の内容を予習復習して理解を深める。予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	授業終了後に質問を受ける。
履修上の注意事項	１年前期に配布したプリントを使用する。１年前期のファイルを持参する。

授業科目	障害児保育	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 社会の状況を積極的に受け入れる柔軟な感性を持つために、障害児保育の理念や歴史的変遷、障害児及びその保育について理解し、その内容と意義を説明することができる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、障害についての理解や援助の方法等について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。 ＜到達目標＞ 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解することができる。 様々な障害についての理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成について学び、理解することができる。 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び子どもとのかかわりのなかで育ち合う実践、保護者への支援や関係機関との連携、保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等について理解することができる。		

授業の計画		
	1	本授業の概要、「障がい」の概念と障がい児保育の歴史的変遷　・「障がい」と「障害」・「障がい」の概念 ・障がい児保育の歴史的変遷
	2	障がい児保育の基本①　・人間のための保育　・子どもの「困り感」「わかり」を読み取る。 ・子どもの世界について
	3	障がい児保育の基本②　・肢体不自由と視覚・聴覚障がいの理解と支援
	4	障がい児保育の基本③　・音声・言語障害、内部障害　肢体不自由児施設の理解と支援
	5	知的障がいの理解と支援①　・知的障がいの理解　・知的障がいの特徴
	6	知的障がいの理解と支援②　・知的障がいの支援　・知的障害児施設の理解と支援
	7	知的障がいの理解と支援③　・ダウン症候群の理解と支援
	8	発達障がい児の理解と支援①　・発達障がいとは　・子どもの行動を理解し支援するために
	9	発達障がい児の理解と支援②　・ＡＤ／ＨＤの理解と支援　・広汎性発達障がいの理解と支援
	10	発達障がい児の理解と支援③　・学習障害の理解と支援　・その他の発達障害の理解と支援
	11	発達障がい児の理解と支援④　・事例から適切な支援の在り方を考える
	12	保育課程に基づく指導計画①　・障がい児保育の計画　・年間指導計画
	13	保育課程に基づく指導計画②　・記録と評価
	14	保育課程に基づく指導計画③　・高知県の個別年間計画　・就学時引き継ぎシート
	15	保育課程に基づく指導計画④　・年間指導計画と個別年間計画の作成
	16	中間試験
	17	中間試験内容についてのフィードバック 保育課程に基づく指導計画⑤　・個々の発達を促す遊びや遊びの環境
	18	保育課程に基づく指導計画⑥　・障がい児の実態に応じた、遊びの内容と実践
	19	保育課程に基づく指導計画⑦　・各年齢における障がい児と健常児・子ども同士のかかわり合いと育ち合い
	20	職員の協同　・チームワーク　・ケース会議とスーパービジョン　・研修の必要性
	21	保護者や家族に対する理解と支援　・保護者への支援　・障がいの受容　・保護者や家族の心に寄り添う支援
	22	事例検討の進め方、事例検討で重要事項の説明 登園と降園「動作がゆっくりで、身支度に時間がかかる子ども」の事例のグループ学習
	23	登園と降園「動作がゆっくりで、身支度に時間がかかる子ども」の事例のフィードバック 登園と降園「登園しぶり～朝になるとおなかが痛くなり、登園できない子ども～」の事例のグループ学習
	24	登園と降園「登園しぶり～朝になるとおなかが痛くなり、登園できない子ども～」の事例のフィードバック 排泄「おむつがとれない子ども」の事例検討
	25	排泄「おむつがとれない子ども」の事例のフィードバック 集団活動「一斉活動に参加したがらない子ども」事例検討
	26	集団活動「一斉活動に参加したがらない子ども」事例のフィードバック 事例検討における課題や問題点についてグループ討議
	27	小学校等との連携　・特別支援教育と障がい児保育　・切れ目のない連携と小学校との連携の在り方 ・連携上、気を付けるもう一つの連携
	28	保健・医療における現状と課題　・保健機関の役割と現状　・医療機関の役割と現状 ・保健・医療の課題
	29	福祉・教育における現状と課題　・福祉における現状　・教育における現状　・福祉・教育における課題
	30	支援の場の広がりとつながり　・支援の広がり　・地域ネットワーク～支援のつながり～ ・先進的取り組み
	31	

授業の方法	授業(視聴覚機器の活用)・演習・グループディスカッション
テキスト	井村圭壯・相澤譲治 編著『現代の障がい児保育』　(学文社)
参考文献	随時紹介
評価方法	試験３５％　レポート３５％　事例検討１０％　授業への取り組み１５％ グループ活動への参加度５％
授業時間外に必要な学習	教科書を事前に読んでくること。　予習３０分 学んだ内容について、保育現場で行かせるよう具体化する。　復習３０分
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の説明事項を守ること。

授業科目	社会的養護内容	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 社会の状況を積極的に受け入れる柔軟な感性を持つために、施設養護及び社会的養護の実際等を学び、理解し、最新の知見を導き出し、適切な判断を下すことができるようになる。 保育士として必要な知識と技能を身につけるため、社会的養護を通して、適切な判断を下すことができるようになる。 ＜到達目標＞ 社会的養護における児童の権利擁護や倫理について具体的に学ぶことができる。 施設養護の及びその他の社会的養護の実際、個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活支援、治療的支援、自立支援等について学ぶ事ができる。 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解することができる。 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解し認識を深めることができる。		

授業の計画		
	1	本授業の概要、社会的養護の枠組みと実施体系①　社会的養護の基本的枠組みと仕組み
	2	社会的養護の枠組みと実施体系②　施設養護の特性および実際
	3	社会的養護の枠組みと実施体系③　里親制度の特性および実際
	4	支援の計画と内容および事例分析①　支援の計画と内容
	5	支援の計画と内容および事例分析② 「社会的養護における日常生活の捉え方」のグループ事例検討
	6	「社会的養護における日常生活の捉え方」のグループ事例検討のフィードバック 支援の計画と内容および事例分析③ 「住生活－小集団生活における家庭環境への可能性と限界性－」のグループ事例検討
	7	「住生活－小集団生活における家庭環境への可能性と限界性－」のグループ事例検討のフィードバック 支援の計画と内容および事例分析④ 「愛着関係の形成－甘えを受けとめる－」のグループ事例検討
	8	「愛着関係の形成－甘えを受けとめる－」のグループ事例検討のフィードバック 支援の計画と内容および事例分析⑤ 「子どもの行動を理解する－生育歴と共感の重要性－」の事例検討
	9	「子どもの行動を理解する－生育歴と共感の重要性－」の事例検討のフィードバック 支援の計画と内容および事例分析⑥　「生活のなかの治療」の事例検討
	10	「生活のなかの治療」の事例検討のフィードバック 社会的養護に関わる専門的技術①　保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用 レポート「専門用語について」
	11	社会的養護に関わる専門的技術②　ソーシャルワークに関わる知識・技術の応用
	12	レポート「専門用語について」フィードバック 社会的養護の課題と展望①　施設の小規模化　　地域との関わり
	13	社会的養護の課題と展望②　社会的養護の課題と展望　　評価用課題レポート「行動上の問題への対応」「里親ファミリーホームの課題と展望」「被虐待児の増加による関わり困難事例」
	14	子どもの権利擁護と保育士等の倫理及び責務①　子どもの権利擁護
	15	子どもの権利擁護と保育士等の倫理及び責務②　保育士等の倫理および責務
	16	

授業の方法	授業(視聴覚機器を活用して行う)・演習・グループディスカッション
テキスト	小木曽宏・宮本秀樹・鈴木崇之　編「よくわかる社会的養護内容総論」〔第３版〕（ミネルヴァ書房）
参考文献	随時紹介
評価方法	レポート６０％　事例検討１０％　授業への取り組み２０％　グループ活動への参加度１０％
授業時間外に必要な学習	教科書を事前に読んでくること。　予習３０分 学んだ内容について、保育現場で行かせるよう具体化する。　復習３０分
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の説明事項を守ること。

授業科目	保育相談支援	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	有田　尚美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・心身ともに健全な乳幼児の成長発達を図るために、保護者とともに子育てを進めていくための有効な支援のあり方を理解し、保護者への保育指導を的確に判断できるようになる。 ＜到達目標＞ ・保育士による保育相談支援の意義と基本的視点について理解することができる。 ・保育相談支援の原理やその方法と技術について理解することができる。 ・保護者や地域の子育て家庭に対する保育相談支援の進め方について学び、内容や方法を理解し、事例を踏まえて実践的な理解ができる。		

授業の計画		
	1	保育相談支援とは何か、保育の業務と保育相談支援
	2	保育相談支援の原則と基本、相談支援の構造・展開と相談支援の関係
	3	保育相談支援の基本①（価値と倫理・信頼関係を築く受容と自己決定の尊重）
	4	保育相談支援の基本②（子どもの最善の利益・子どもの成長の喜びの共有・保護者の養育力向上）
	5	保育相談支援の展開①（保育を基盤とした保育相談支援・保育相談支援の方法と技術）
	6	保育相談支援の展開②（保育相談支援の展開過程と実施体制）
	7	環境を通した保育相談支援①（保護者との信頼関係を形成する環境・保護者の日常生活を支える環境）
	8	環境を通した保育相談支援②（保護者の子ども理解を促す環境・家庭の生活を支える環境）
	9	保育所入所児童への保育相談支援の場面
	10	保育所入所児童への保育相談場面の方法
	11	保育所入所児童への保育相談支援の評価
	12	保育所の地域子育て支援における保育相談支援の役割
	13	保育所の地域子育て支援における保育相談支援の手段と評価
	14	保育所以外の児童福祉施設における保育相談支援の特性
	15	保育所以外の児童福祉施設における保育相談支援の実践内容
	16	試　験

授業の方法	講義・演習
テキスト	「新・プリマーズ／保育　保育相談支援」　柏女霊峰／橋本真紀（ミネルヴァ書房）
参考文献	「幼稚園教育要領解説」　文部科学省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」　厚生労働省（フレーベル館）
評価方法	授業態度（40%）　試験（60%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前に当該時間の学習箇所を確認し、教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容を復習し、自分の考えをまとめておくこと。（予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 13 時 30 分－14 時 30 分
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。

授業科目	音楽Ⅰ＜通論＞	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	竹村　　正		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 教育内容「表現」の基本理念に基づき、音楽の基礎的知識を得ることにより、教育・保育の場で活用できるように歌唱や器楽の基礎技能と連結させ、いきいきと音楽表現ができるようになる。 ＜到達目標＞ 保育者として必要とされる音楽の基礎知識、及びキーボードハーモニーの理論を理解し、メロディーに対し適切な伴奏づけができる。また教育・保育に必要な音楽の基礎知識や技能を身につけることによって、音楽表現の楽しさを子どもに伝えることができるようになる。		

授業の計画		
	1	譜表・音名、コードネーム　　伴奏付け　ハ長調・主要三和音と和音の連結
	2	音符と休符　　伴奏付け　ハ長調・主要三和音と和音の連結
	3	リズム・拍・拍子　　伴奏付け　ハ長調・主要三和音と和音の連結
	4	拍子・音程　　伴奏付け　ヘ長調・主要三和音と和音の連結
	5	音程　　伴奏付け　ヘ長調・主要三和音と和音の連結
	6	音程　　伴奏付け　ト長調・主要三和音と和音の連結
	7	音程・長音階と短音階　　伴奏付け　ト長調・主要三和音と和音の連結
	8	長音階と短音階・調性　　伴奏付け　ニ長調・主要三和音と和音の連結
	9	調性　　伴奏付け　ニ長調・主要三和音と和音の連結
	10	調性・移調と転調　　伴奏付け　変ロ長調・主要三和音と和音の連結
	11	移調と転調　　伴奏付け　変ロ長調・主要三和音と和音の連結
	12	音楽楽語・用語・記号　　伴奏付け　イ短調・主要三和音と和音の連結
	13	楽曲の形式　　伴奏付け　ホ短調・主要三和音と和音の連結
	14	子どもの歌創作と伴奏付け　　伴奏付け　ニ短調・副三和音
	15	子どもの歌創作と伴奏付け　　伴奏付け　まとめ・副三和音
	16	試　験

授業の方法	伴奏付け演習、音楽理論については講義を行う。
テキスト	『やさしいピアノ伴奏法』、『歌う、弾く、表現する保育者になろう』他学習プリント
参考文献	
評価方法	授業態度 10%・伴奏付け実技 30%・試験 60%
授業時間外に必要な学習	授業毎の予習と復習が必要である。　　予習・復習時間：1時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜　　午後１時～３時
履修上の注意事項	五線ノートを準備すること

授業科目	音楽Ⅰ＜声楽＞	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	秀浦　陽子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育内容「表現」の基本理念に基づき、童謡の弾き歌い、また少人数のグループ演習を通して子どもたちの音楽表現活動をどのように展開するかを考察し、保育現場で活用できる歌唱表現の基礎技能習得を目的とする。 ＜到達目標＞ 声楽の専門分野における発声の基本原理や歌唱の基本的表現法を理論的な裏付けを交えながら学ぶことによって、自ら創意工夫をし子どもたちに歌唱表現の楽しさや素晴らしさを共感を持って伝えることができるようになる。		

授業の計画		
	1	保育における歌唱とは
	2	弾き歌いについて・課題発表
	3	弾き歌いについて・課題発表
	4	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	5	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	6	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い　　課題発表
	7	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	8	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い　　グループ演習発表
	9	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	10	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	11	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い　　課題発表
	12	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	13	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い
	14	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い　　課題発表
	15	季節の歌を中心にテキストより選曲した教材を歌唱、弾き歌い　　グループ演習発表
	16	試験

授業の方法	講義と演習
テキスト	「こどものうた　100」（チャイルド本社）
参考文献	「日本の子どもの歌」（音楽之友社）
評価方法	弾き歌い試験 80%・平常時課題 20%
授業時間外に必要な学習	授業時の課題を練習する。予習復習時間：1 時間　（特に復習を欠かさず行うこと）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	事前に電子メールで要件を連絡の上、授業終了後に時間を取る。 アドレスは初回授業で知らせる。
履修上の注意事項	毎時「季節のうた」の弾き歌いを課題としますので、各自必ず予習復習をして臨むこと。

授業科目	音楽Ⅰ＜器楽＞	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	竹村　　正、門脇 加江子・小佐井 淑子・野村 京子・宮地 公美子・宮本 由美子・山本 扶美（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育内容「表現」の基本理念に基づき、ピアノ演奏や子どもの歌の伴奏付け、器楽合奏を通して、子どもたちの集団生活を育む教育、保育に必要な音楽の基礎的技能、すなわち上腕の脱力弛緩、指の独立、運指、正しいペダリング等を習得し、いきいきとした音楽表現ができるようになる。 ＜到達目標＞ ピアノ演奏については各自の能力に応じた個人指導を受け、音楽理解力や演奏技術、表現力の向上を図る。加えて器楽合奏を体験することにより音楽表現の総合的な能力を身につけ、それぞれの楽曲の素晴らしさを共感を持って子どもたちに伝えることができるようになる。		

授業の計画		
	1	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	2	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	3	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	4	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	5	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	6	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	7	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	8	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	9	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	10	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	11	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	12	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	13	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	14	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	15	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	16	これまでに習得した曲より課題発表
	17	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	18	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	19	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	20	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	21	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	22	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	23	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	24	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	25	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	26	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	27	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	28	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	29	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	30	テキストより選曲した教材の個人指導・子どもの歌の伴奏
	31	試　験

授業の方法	演習（個人指導・グループ学習）
テキスト	『バイエル教則本』『ブルグミュラー25/18 の練習曲集』『ソナチネアルバム』『ソナタアルバム』　その他、各自の能力に応じたピアノテキストを使用、『こどものうた１００』
参考文献	
評価方法	実技試験 70%、器楽合奏 20%、授業態度 10%
授業時間外に必要な学習	目的を持った丁寧な練習を毎日積み重ねることが必要である。　　予習・復習時間：１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜　午後１時～３時（竹村　正）、非常勤講師は授業終了後
履修上の注意事項	各自の能力に応じて、上達が少なく目標に達しない場合は、補講を受け目標を達成する。

授業科目	音楽Ⅱ＜器楽・表現＞―器楽―	授業の方法・単位	演習・音楽Ⅱで２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	竹村　　正、宮地　公美子・野村　京子・小佐井　淑子・山本　扶美（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ １年時に習得したピアノ演奏の基礎技能をもとに表現力の更なる向上を目指す。また実戦的な力として季節の歌等の子どもの歌の伴奏を学習し、いきいきとした音楽表現ができるようになる。 ＜到達目標＞ 能力に応じた個人指導を受けることにより、ピアノ演奏技能を更に向上させる。また子どもの歌の伴奏を学び、保育者に必要な技能の一つとして、子どもの音楽環境を整えることができるようになる。		

授業の計画		
	1	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導。 子どもの歌の伴奏個人指導
	2	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	3	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	4	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	5	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	6	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	7	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	8	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	9	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	10	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	11	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	12	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	13	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	14	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	15	個人の進度に応じたピアノ演奏個人指導 子どもの歌の伴奏個人指導
	16	試　験

授業の方法	能力別グループ内での個人指導
テキスト	「音楽Ⅰ」で使用のピアノテキストを継続して使用　、「こどものうた２００」
参考文献	
評価方法	平常時課題 20%・実技試験 80%
授業時間外に必要な学習	目的を持った丁寧な練習を日々積み重ねることが必要である。　　予習・復習時間　１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜　午後１時～３時（竹村　　正）　非常勤講師は授業終了後
履修上の注意事項	

授業科目	音楽Ⅱ＜器楽・表現＞－表現－	授業の方法・単位	演習・音楽Ⅱで２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	秀浦　陽子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ １年次で履修した歌唱表現活動の技能習得を基本にして、保育現場における歌唱活動の表現力の向上と子どもの歌のレパートリー拡大を目的とする。 ＜到達目標＞ 声楽の専門的な視点からことばのリズムやことばとフレージングの相関性等について、声楽の専門的な内容が理解でき、表現力に幅を持つことができる。童謡の弾き歌いにおいてより高度な歌唱表現ができるようになる。		

授業の計画		
	1	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	2	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱　　弾き歌い課題発表
	3	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	4	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	5	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱　　弾き歌い課題発表
	6	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	7	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	8	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱　　弾き歌い課題発表
	9	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	10	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	11	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱　　弾き歌い課題発表
	12	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	13	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	14	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱　　弾き歌い課題発表
	15	季節のうた、生活のうたを中心にテキストより選曲した教材を歌唱
	16	試験

授業の方法	講義と演習
テキスト	「こどものうた　100」「こどものうた　200」（チャイルド本社）
参考文献	「日本の子供の歌（音楽の友社）」
評価方法	弾き歌い試験 80%・平常時課題 20%
授業時間外に必要な学習	授業時の課題を練習する。　予習復習時間：1 時間（特に復習を欠かさず行うこと）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	事前に電子メールで要件を連絡の上、授業終了後に時間を取る。 アドレスは初回授業で知らせる。
履修上の注意事項	課題曲の予習復習を必ずして臨むこと。

授業科目	基礎造形	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　通年		
担当教員	末田　光一		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 幼児にとってかいたり作ったりする造形表現活動はいわば根源的欲求であり、彼等の成長の大きな原動力である。この時間は、幼児教育者の専門性を裏付ける一つの要素として教育者自身にも美術的素養が求められることについて認識を深め、関連する知識について学び、基礎的技能を養う。 ＜到達目標＞ 課題作品製作を中心にした演習を通して、必要な知識について理解するとともに、造形的基礎技能を習得することができる。		

授業の計画		
	1	造形の基本的とらえ方
	2	基礎的技法の習得＜豊かな表現への手がかり＞（１）スクラッチ
	3	（２）スクラッチ②・デカルコマニー
	4	（３）ドリッピング①（吹き絵・流し絵）
	5	（４）ドリッピング②（かけ絵）
	6	（５）箸ペン①
	7	（６）箸ペン②
	8	（７）スタンピング①（墨糸はじき・糸引き模様）
	9	（８）スタンピング②（糸目転がし・シャボン玉はじき）
	10	（９）フロッタージュ・マーブリング
	11	(10) モノプリント
	12	(11) コラージュ
	13	(12) フォトモンタージュ
	14	(13) ステンシル
	15	自主研究課題ガイダンス（折り紙取材習得・手作り絵本製作）
	16	手作り絵本製本
	17	造形材料としての粘土
	18	粘土による箱庭共同製作（１）テーマ決定・作品構想
	19	（２）製作
	20	（３）製作
	21	（４）製作・展示
	22	モビール製作（１）テーマ決定・作品構想・材料選択
	23	（２）ユニット製作
	24	（３）ユニット製作
	25	（４）ユニット取り付け・展示
	26	鑑賞（１）美術の変遷の背景
	27	（２）近代美術の巨匠の作品とその生涯①
	28	（３）近代美術の巨匠の作品とその生涯②
	29	（４）近代美術の巨匠の作品とその生涯③
	30	（５）感想および考察 ※この外に県立美術館の日程にあわせ美術展鑑賞を課す。（レポート提出）
	31	

授業の方法	実技演習が中心　　※造形演習室（１号館４階）を使用する。
テキスト	『保育をひらく造形表現』　槇 英子 著／萌文書林 ※他に資料プリントを配付する
参考文献	
評価方法	実技課題（80%）、レポート（10%）、小テスト（10%）
授業時間外に必要な学習	・授業前：予め指示された課題について明確化し、必要な素材、道具等は必ず準備持参する。 ・授業後：学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計１時間。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日 13：00～15：00
履修上の注意事項	履修上の注意について詳細は１回目の授業で告知する。

授業科目	造形	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	末田　光一		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 美術の原点を探ることによって、まずそこでは決してもったいぶった観念や技術など必要ではなく、むしろ人間らしさが取り戻せる場であることを学び、それを手がかりにして豊かな表現力を養い、幼児教育者として必要な美術的素養を深める。 ＜到達目標＞ 受講生全員参加による空間的広がりが感じられる課題製作を中心とした実技演習における製作過程を通して、造形的技能における応用力を身につけることができる。		

授業の計画		
	1	造形の今日的意味
	2	フィンガー＆フットペインティング＜巨大なたらし絵からの発展＞
	3	水に浮かぶ彫刻作品共同製作＜発泡スチロールを素材として＞（１）テーマ決定・作品構想
	4	（２）発泡スチロールの型取り・切削
	5	（３）発泡スチロールの型取り・切削
	6	（４）切削・接着
	7	（５）切削・接着
	8	（６）研磨・着色
	9	（７）最終調整・仕上げ
	10	（８）作品設置（１号館中庭の池）・省察
	11	カラーブロックによる立体作品製作＜幼児期への回帰＞
	12	ガラス絵作品製作＜日常的空間に新鮮な刺激を求めて＞（１）作品構想・製作
	13	（２）製作
	14	（３）ガラス窓に貼付・仕上げ
	15	モザイク画共同製作＜新たな表現技法への接近＞（１）製作ガイダンス・原画作品選択
	16	（２）実寸大下絵作製準備
	17	（３）実寸大下絵作製
	18	（４）実寸大下絵作製
	19	（５）モザイクタイルの枚数割り出し
	20	（６）モザイクタイルの枚数割り出し・集計
	21	（７）実寸大下絵の複写・製作分担領域の確認
	22	（８）製作
	23	（９）製作
	24	(10) 製作
	25	(11) 製作
	26	(12) 製作
	27	(13) 製作
	28	(14) 製作
	29	(15) 製作
	30	(16) 最終調整・仕上げ・省察
	31	

授業の方法	実技演習が中心。　※造形演習室（１号館４階）を使用する。
テキスト	資料プリントを配付する。
参考文献	
評価方法	実技課題（100%）
授業時間外に必要な学習	・授業前：予め指示された課題について明確化し、必要な素材、道具等は必ず準備持参する。 ・授業後：学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計１時間。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日 13：00～15：00
履修上の注意事項	・受講定員　30 名 ・履修上の注意について詳細は１回目の授業で告知する。

授業科目	造形特論	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	末田　光一		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 子ども達の具体的感情が常にともなう造形表現活動は、彼らが新しい世界を日々発見し、広げていく営みの重要な基盤である。この時間は、実技を中心に美術的教養を習得しながら、幼児にとって重要な造形活動への効果的刺激となりうる豊かな環境の創出について考察し、幼児教育者としての必要な美術的素養を深める。 ＜到達目標＞ 身近な物の造形材料としての有効活用が、適切な環境構成に有用なことを知り、アイデアをもとに工夫しながら作品を作製することができる。		

授業の計画		
	1	保育の場における望ましい環境（造形的分野を中心に）
	2	立体的ジャンクアート共同製作＜美術への接近＞　(1) 作品構想立案
	3	(2) 構想決定・材料選択
	4	(3) 製作
	5	(4) 製作
	6	(5) 製作
	7	(6) 製作・仕上げ・省察
	8	劇化教材製作＜総合表現への試み＞　（１）周辺機材の活用も含めた構想立案
	9	（２）構想決定・製作手順の確認・シナリオ決定
	10	（３）製作
	11	（４）製作
	12	（５）製作・劇進行の確認
	13	（６）製作・劇進行の確認
	14	（７）練習・リハーサル
	15	（８）発表・保育実践での応用を含む省察
	16	大型壁面構成共同製作＜望ましい保育環境への試み＞（１）構想・材料選択
	17	（２）製作
	18	（３）製作
	19	（４）展示・保育実践での応用を含む省察
	20	自主設定製作＜保育の場との関連付けの中で＞（１）課題ガイダンス・構想立案
	21	（２）製作企画決定（ねらい・表現手段・材料選択）
	22	（３）製作
	23	（４）製作
	24	（５）製作
	25	（６）製作・中間検討
	26	（７）製作
	27	（８）製作
	28	（９）製作
	29	(10) 製作・仕上げ
	30	(11) 展示・保育実践での活用を含む省察
	31	

授業の方法	実技演習が中心。　※造形演習室（１号館４階）を使用する。
テキスト	資料プリントを配付する。
参考文献	
評価方法	実技課題（80%）、省察小テスト（20%）
授業時間外に必要な学習	・授業前：予め指示された課題について明確化し、必要な素材、道具等は必ず準備持参する。 ・授業後：学習内容を復習して理解を深め、各課題は確実に仕上げる。予習・復習合計１時間。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日 13：00～15：00
履修上の注意事項	・受講定員　30 名 ・履修上の注意について詳細は１回目の授業で告知する。

授業科目	体育	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	池澤　眞由美、山本　英作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ １．身体への意識の開放　２.遊びへの意識の開放　３．ダンスへの感性の開放 幼児期の子どもの成長は、遊びや運動、生活動作等模倣を軸として学習されている。 幼児にとり表現活動は極めて重要であり、幼児教育者として、広く身体表現の意味する所を理解する。 ＜到達目標＞ 自分自身の身体の可動範囲を広げ、身体能力向上に努め、実践に必要な身体作りと共に学習の場として心身共にのびやかに実施できるように挑戦する。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション・授業説明、進め方、身体チェック等　（池澤）
	2	姿勢（座る・立つ・歩く）意識について・運動スキル　（池澤）
	3	模倣を楽しみ、感じたまま歩いて形にする・運動スキル　（池澤）
	4	模倣を楽しみながらいろんな動きをする・運動スキル　（池澤）
	5	いろいろな動きを実施（歩くより始まるもの）・運動スキル　（池澤）
	6	動きと空間の関係・運動スキル　（池澤）
	7	リズムとスキル・運動スキル　（池澤）
授	8	リズムとスキル・運動スキル　（池澤）
	9	運動スキル確認テスト　（池澤）
	10	リズムとフレーズについて　（池澤）
	11	動きのモチーフ創り　（池澤）
業	12	動きのフレーズ創り　（池澤）
	13	動きづくりとボールフィーリング①　（山本）
	14	動きづくりとボールフィーリング②　（山本）
	15	動きづくりとボールフィーリング③　（山本）
の	16	ソロでの小作品創り（個人）　（池澤）
	17	ソロでの小作品創り（個人）　（池澤）
	18	ソロでの作品発表、感想　（池澤）
	19	リボンを使っての作品創り①（団体）　（池澤）
計	20	リボンを使っての作品創り②（団体）　（池澤）
	21	リボンを使っての作品創り③（団体）　（池澤）
	22	リボンを使っての作品創り④（団体）　（池澤）
	23	リボンを使っての作品発表、感想　（池澤）
画	24	グループによるダンス創り①（グループ分け）　（池澤）
	25	グループによるダンス創り②　（池澤）
	26	グループによるダンス創り③　（池澤）
	27	グループによるダンス創り④　（池澤）
	28	グループによるダンス創り⑤　（池澤）
	29	グループによるダンス創り⑥　（池澤）
	30	グループ発表　（池澤）
	31	

授業の方法	演習、実技
テキスト	
評価方法	実技・実施態度 30%、運動スキルテスト 30%、創作ダンス発表評価 40%
授業時間外に必要な学習	・毎日の睡眠を記入し自分の睡眠と身体の関係について理解を深める ・毎日のストレッチを続ける努力をする。　予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	金曜日（13:30～17：00）（池澤 眞由美）　火曜日(14:30～16:00)（山本 英作）
履修上の注意事項	動きやすい服装、中・高の体育館使用の為マナーに注意する事。

授業科目	遊びと運動	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	池澤　眞由美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ １．こどもの身体及び遊びを考える　２.リズム運動表現の創作　３．ごっこ遊びの先に･･･創作劇を作る。（絵本からイメージを広げて幼児対象の劇作り） ＜到達目標＞ こどもが動けるリズム運動創作及び絵本を媒介としたこども劇を創作する過程において、協調性を養い、ゼロから作り上げる過程を実感する。動く絵本としてのこども劇創りを目標とし、実施に努め、幼児教育の現場での発表を目標とする。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション、授業説明、進め方、こどもの遊びについて。（昔の遊び、今の遊び）
	2	現代のこどもの身体に関する問題を話し合う。
	3	こどもの身体の発育、発達について考える。
	4	こどもの遊びを育てる仲間づくり、環境づくりについて考える。
	5	現在の子供の身体、遊びに関する問題をまとめ、自分たちの出来ることを話し合う。
	6	こども達の全身を使って動く、運動表現、運動遊びの意義を考える。
	7	リズム運動表現創作に当っての構想、グループ分け説明。
	8	リズム運動創作（小さな作品）
	9	リズム運動創作（小さな作品）、創作劇作りの話し合い、役割分担説明
	10	リズム運動創作（小さな作品）、創作劇作りの話し合い
	11	リズム運動創作発表
	12	創作劇創り
	13	創作劇創り
	14	創作劇創り、リズム運動練習
	15	創作劇創り、リズム運動練習
	16	創作劇創り、リズム運動練習
	17	創作劇創り、小道具・曲確認
	18	創作劇創り、リズム運動練習
	19	創作劇創り、リズム運動練習
	20	創作劇創り、衣装・曲確認
	21	創作劇作り（全員でチェック）
	22	創作劇練習、リズム運動練習
	23	創作劇練習、リズム運動練習、小道具製作・確認
	24	創作劇練習、リズム運動練習、小道具製作・確認
	25	創作劇練習、小道具製作・大道具製作・確認
	26	創作劇練習、大道具製作・衣装･曲確認
	27	創作劇練習（全員で劇チェック、確認作業）
	28	創作劇練習、リズム運動練習、衣装・曲確認
	29	創作劇練習、リズム運動練習
	30	創作劇発表
	31	

授業の方法	実技、グループ学習、創作、発表
テキスト	資料プリントを配付する。
参考文献	
評価方法	創作劇発表 50%、レポート 50%
授業時間外に必要な学習	こどもに関する情報はしっかり収集する。 こども番組等に目を通すようにする。（NHK のこども番組 etc）　　予習・復習合計１時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	金曜日　（13：30～17：00）
履修上の注意事項	受講定員 30 名 動きやすい服装

授業科目	国語	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	今井　多衣子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 幼児に接するために必要な児童文学についての基礎的な知識を拡げ、理解を深めることができるようになる。 ＜到達目標＞ 世界と日本の児童文学史の流れを学び有名な児童文学の知識を得て、実際に課題の児童文学をよむことにより作品を一層身近に感じ理解することができる。		

授業の計画		
	1	＜はじめに＞　授業目的、授業概要、児童文学の定義
	2	イソップの寓話　－「教訓の思想」－
	3	寓話の時代から物語の時代へ　－「同居の時代」－　課題１
	4	大人の本棚から来た子どもの本
	5	空想に扉を開く時代　－物語の教訓からの離脱－
	6	ファンタジー世界の確立　－アリスの世界－　課題２
	7	「四人の少女」と家庭小説
	8	「トム・ソーヤーの冒険」　－悪童の時代－
	9	美しい子どもたち　－その１－
	10	〃　－その２－
	11	「エーミールと探偵たち」　－20 世紀世界の子どもたち－　課題３
	12	第二次世界大戦後の世界の児童文学
	13	日本の児童文学史
	14	近代の世界の児童文学
	15	絵本の歴史
	16	試験

授業の方法	講義
テキスト	『改訂　児童文学へのいざない－児童文学ハンドブック』　原　昌　著（建帛社）
参考文献	『子どもが選んだ子どもの本』　鳥越　信 編（創元社）
評価方法	①授業態度(10%)　②課題・レポート(40%)　③試験(50%)
授業時間外に必要な学習	課題をきちんとこなすこと。予習・復習合計 4 時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	電子メールで受け付ける。アドレスは授業で知らせる。
履修上の注意事項	①～③が全てそろわないと評価をしない。

授業科目	教師論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	小島　一久、浜田　幸作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　保育者の意義および役割、職務内容等に関する知識・理解を深め、保育者に対する自らの適性を考えるとともに、自分を振り返りながら保育者への意欲や自覚を養うことを目的とする。 ＜到達目標＞ ・保育者の意義、保育者に求められる資質・能力について理解することができる。 ・保育者の役割と職務内容について理解することができる。 ・保育者に求められる専門性について学ぶことができる。		

授業の計画			
	1	授業の目的と計画について	（小島）
	2	子どもが育つ環境と保育（保育者として求められる資質とは）	（小島）
	3	保育者の専門性①（保育者の資質）保育者の仕事と役割	（小島）
	4	保育者としての専門性②（指導計画の作成と保育の展開）	（小島）
	5	保育者としての専門性③（専門性を高める保育記録の意義）	（小島）
	6	保育者としての専門性④（幼児理解と評価）	（小島）
	7	保育者としての倫理観（人権尊重、守秘義務など）	（浜田）
	8	今日の子育ての状況と家庭の教育力	（浜田）
	9	保護者との関係づくりと支援の在り方	（浜田）
	10	地域のなかで子育ち、子育てを支える保育者の役割	（浜田）
	11	保育者集団と職場環境づくり	（浜田）
	12	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園における保育者像	（小島）
	13	これから求められる保育者像	（小島）
	14	保育者の体験談から保育者になる意味を問い直す	（小島）
	15	自己の成長と省察	（小島）
	16	試験	

授業の方法	教科書とプリントを使用し講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。また、双方向性の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていく。
テキスト	小田 豊、 笠間 浩幸、 柏原 栄子　編著『保育者論』［新版］ 北大路書房
参考文献	随時紹介
評価方法	試験（60%）、授業への取り組み・レポート（40%）から評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：事前にテキストの該当箇所を事前読んでおくこと。 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。（予習・復習合計４時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前９時～10 時
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守すること。

授業科目	幼児理解と教育相談	授業の方法･単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	池　　雅之（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 幼児・児童・生徒が保育所、幼稚園、学校生活において、心の成長を促すための援助及び、さまざまな問題に遭遇した際の解決を援助するため、幼児の理解を深め、教育相談の知識や技法の基本を理解する。 ＜到達目標＞ 幼児保育の立場で教育相談を実践しうる資質の向上と教育相談の知識や技法を習得する。		

授業の計画		
	1	教育相談の意味と目的…幼児理解と教育相談の基本的枠組
	2	カウンセリングの理論と実際
	3	幼児理解の理論と対応
	4	保育計画や評価へ活かす幼児理解の視点
	5	幼児理解の精神医学的な基礎
	6	保幼小連携に向けた幼児理解と臨床問題への対応①－不登校を中心に
	7	保幼小連携に向けた幼児理解と臨床問題への対応②－いじめを中心に
	8	保幼小連携に向けた幼児理解と臨床問題への対応③－学級崩壊、反社会的問題行動などを中心に
	9	特別支援教育と幼児理解－神経症的問題の理解と対応と中心に
	10	開発的カウンセリング－学級経営に生かすカウンセリング的手法
	11	保護者に対する援助
	12	園内での協力体制
	13	他機関との連携
	14	教職員のメンタルヘルス
	15	スクールカウンセリングの実際
	16	

授業の方法	講義・実習・グループワーク（全習法、分習法をとりまぜ体験を通して総合的に学習する）
テキスト	『学校教育相談』　一丸藤太郎・菅野信夫 編著（ミネルヴァ書房）（必ず持参のこと）
参考文献	『臨床教育学入門』河合隼雄（岩波書店）、『子どもと悪』河合隼雄（岩波書店） 『学校カウンセリング』氏原　寛・谷口正己・東山弘子（ミネルヴァ書房）
評価方法	レポート 80%、授業内課題 20%
授業時間外に必要な学習	テキスト必携し、授業時に指示した課題について準備や時間外も学習をすること 予習・復習合計 4 時間
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	集中授業の各回の休憩時間に適宜対応
履修上の注意事項	事実、感情、思考を明確にしつつ体験的に教育相談の理解を深める。動きやすい服装で参加を。

授業科目	教職実践演習（幼稚園）	授業の方法・単位	演習・２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　通年		
担当教員	末田　光一、竹村　　正、吉村　　斉、有田　尚美、山本　英作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 教職課程・保育士養成課程内外での様々な学習内容を有機的に統合し教職・保育職として必要な資質能力を身につける。 ＜到達目標＞ ・教職・保育職に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行うことができる。 ・模擬保育を通して実践力、指導力を高める。 ・自らの学びを振り返り、教職・保育職として必要な知識・技能を活用して実践することができる。		

授業の計画		
	1	保育者に求められる責任感、社会性、学級経営、指導力　担当：吉村
	2	幼稚園の生活の理解　担当：有田
	3	観察実習の振り返りに基づく自己課題の明確化　担当：吉村
	4	保育計画・指導法に関する学習内容の振り返り－計画を立てることの意味　担当：有田
	5	教育実習の意味の再構築　担当：吉村
	6	保育計画・指導法に関する学習内容の振り返り①－指導計画の実際　担当：有田
	7	教育実習での保育実践―反省と改善①　担当：吉村
	8	保育計画・指導法に関する学習内容の振り返り②－指導計画の実際　担当：有田
	9	教育実習での保育実践―反省と改善②　担当：吉村
	10	保育計画・指導法に関する学習内容の振り返り③－指導計画の実際　担当：有田
	11	子どもの発達と保育者の援助①－幼児理解に関する事例研究：他者理解　担当：吉村　課題①
	12	子どもの発達と保育者の援助②－乳児理解に関する事例研究：共同注意　担当：吉村　課題② 課題①のフィードバック
	13	子どもの発達と保育者の援助③－乳児理解に関する事例研究：ことば　担当：吉村　課題③ 課題②のフィードバック
	14	子どもの発達と保育者の援助④－保育者の専門性　担当：吉村　課題③のフィードバック
	15	保育内容（表現）に関する指導力の向上：造形表現活動　担当：末田
	16	模擬保育：造形表現活動①　担当：末田
	17	模擬保育：造形表現活動②　担当：末田
	18	模擬保育：造形表現活動③　担当：末田
	19	グループ討論：模擬保育（造形表現活動）の省察と評価　担当：末田
	20	教科・保育内容等に関する指導力の向上：体育　担当：山本
	21	模擬保育：体育①　担当：山本
	22	模擬保育：体育②　担当：山本
	23	模擬保育：体育③　担当：山本
	24	グループ討論：体育　担当：山本
	25	教科・保育内容等に関する指導力の向上：音楽　担当：竹村
	26	模擬保育：音楽①　担当：竹村
	27	模擬保育：音楽②　担当：竹村
	28	模擬保育：音楽③　担当：竹村
	29	グループ討論：音楽　担当：竹村
	30	まとめ―教職・保育職における資質能力の確認　担当：吉村

授業の方法	演習（講義、演習、実技を含む）
テキスト	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第２版』太田光洋　編著（ミネルヴァ書房） 適宜、資料・プリント等を配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	レポート（30%）、グループ討論・模擬授業における取り組み（70%） 「幼児保育学科・学習成果評価のためのルーブリック」に基づく。
授業時間外に必要な学習	予習：学外実習のふり返りと反省に基づいた課題を明確にすること。 復習：学習内容を活用した自己成長の目標を明確にし、実践すること （予習復習合計１時間）。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	末田：月曜日 13：00～15：00　竹村：火曜日 13：00～15：00　吉村：月曜日 16：00～18：00 有田：火曜日 13：30～14：30　山本：火曜日 14：30～16：00
履修上の注意事項	履修上の注意については、各担当教員の１回目の授業で告知する。

授業科目	教育媒体の研究	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	濱田　美晴		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 幼児教育の現場で用いられる教育媒体の特徴を理解し、効果的な活用方法を習得する。製作体験やディスカッション・発表体験等を行うなかで、幼児理解を深めながら保育者として求められる活用力・課題発見能力を身につける。 ＜到達目標＞ ・教育で用いられる媒体の特徴が理解できる。 ・協同学習の意義と技法を体験的に学習することでコミュニケーション力を身につける。 ・教え導くための情報伝達手段である教育媒体について理解を深めるとともに、情報機器及を効果的に活用できる。		
授業の計画	1	オリエンテーション，情報の収集と整理，園からの情報発信	
	2	園だよりの作成　～オートシェイプと図の取り扱い・複数の段ブロックに配置する～	
	3	子ども理解からはじまる保育指導の目標づくり	
	4	指導案の作成	
	5	・環境構成の作り方	
	6	動画教材の作成方法	
	7	模擬授業をふりかえる　～動画を活用して子ども理解を深める～	
	8	動機づけとしての教材研究のあり方　～製作発表の意義と方法～	
	9	電子教材の製作と活用方法	
	10	教育ツールとしての画像と音（音楽）の活用　～ファイル形式を理解する～	
	11	発表要旨の作製	
	12	公正な評価を行う基準の考案　～ルーブリック評価を作る～	
	13	グループ製作発表とルーブリックによる相互評価①	
	14	グループ製作発表とルーブリックによる相互評価②	
	15	製作ファイルの整理と活用方法について考える	
	16		
授業の方法	講義およびコンピュータ演習		
テキスト	プリント配布等		
参考文献	適宜紹介する.		
評価方法	到達目標に対する達成度を提出物・発表等によって評価する。提出物（課題）40%、 発表内容 50%、受講態度 10%の割合で総合的に評価する。		
授業時間外に必要な学習	授業の内容を復習し理解を深め、課題に取り組むこと。（課題製作への取り組み・1 時間）		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	毎週、火曜日 14：30－16：00　情報科学研究室，5 号館 4F		
履修上の注意事項			

授業科目	保育指導法	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	有田　尚美		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 保育の展開における基礎的事項を基に、子どもの視点から保育を構想する力や子どもの活動にそって総合的に指導することについて理解する。 ＜到達目標＞ ・保育の基本と保育方法を理解し、幼児理解を基にした指導について説明することができる。 ・環境構成の意味と保育の展開とともに、一人一人に応じた指導について理解し説明することができる。 ・保育における遊びや生活について理解し、発達に応じた指導のあり方について考え、計画を立てることができる。		

授業の計画		
	1	保育とは何か
	2	保育指導の基本としておさえておくべきこと（環境を通して行う・幼児期にふさわしい生活・遊びをとしての総合的な指導・一人一人に応じる指導）
	3	保育における遊びの指導（保育における遊び・遊びを通しての総合的指導）
	4	土だんご作りを通して保育における遊びを考える
	5	保育の場面を通した幼児理解
	6	幼児理解とその方法（幼児理解とは・幼児の発達をとらえる・個と学級集団の関係）
	7	環境構成と保育の展開（環境構成の意味・環境としての保育者）
	8	一人一人に応じた指導（なぜ一人一人に応じる指導が大切なのか・一人一人の幼児の理解）
	9	生活の指導（基本的な生活の自立・道徳性の芽生えを培う）
	10	０．１．２歳児の発達の特徴と保育のポイント
	11	３歳児の発達の特徴と保育のポイント
	12	４歳児の発達の特徴と保育のポイント
	13	５歳児の発達の特徴と保育のポイント
	14	さまざまな保育の形態（保育の形態・ティーム保育）
	15	保育者に求められる専門性（保育の基本理解・子ども理解・保育の展開・連携）
	16	試　験

授業の方法	講義・演習
テキスト	「新保育シリーズ　保育方法」神長　美津子・塩　美佐江編著（光生館）
参考文献	「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）
評価方法	授業態度（30%）　試験（70%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前に当該時間の学習箇所を確認し、教科書を読んでおくこと。 復習：学習内容を復習し、自分の考えをまとめておくこと。（予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	火曜日 13 時 30 分－14 時 30 分
履修上の注意事項	幼児保育学科「学生生活の在り方」の内容を遵守すること。

授業科目	教育課程概論	授業の方法・単位	講義・２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期		
担当教員	小島　一久、浜田　幸作・山下　文一（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 教育課程の編成原理や、教育課程の評価方法などの基礎的理論および基本的な用語を理解する。 ＜到達目標＞ ・教育課程の意義及び編成の方法について理解する。 ・幼稚園の教育課程の変遷を理解し、今後の幼稚園教育について自分なりの考えを持つ。 ・指導計画の立案、実践、評価、改善の流れを理解することができる。		

授業の計画		
	1	授業の目的と計画について　（浜田）
	2	保育の基本と計画（教育課程・保育課程の意義）　（浜田）
	3	幼児期の遊びと学び　（浜田）
	4	保育における計画の変遷（明治・大正・戦後期）　（浜田）
	5	幼稚園における教育課程（教育課程の意義と関係法令）　（小島）
	6	保育所における保育課程（保育課程の意義と関係法令）　（小島）
	7	教育課程・保育課程の編成と実際　（山下）
	8	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成　（山下）
	9	幼稚園における指導計画作成の実際１（園の実態及び指導計画の考え方の実際　（山下）
	10	幼稚園における指導計画作成の実際２（長期・短期の指導計画の実際）　（山下）
	11	保育所における指導計画作成の実際１（園の実態及び指導計画の考え方の実際）　（山下）
	12	保育所における指導計画作成の実際２（長期・短期の指導計画の実際）　（山下）
	13	保育における評価（Ｐ・Ｄ・Ｃ・Ａによる評価）　（山下）
	14	教育課程・保育課程の課題と展望　（山下）
	15	幼児保育における教育課程概論の役割と実践への適用　（山下）
	16	試　験

授業の方法	教科書とプリントを使用し講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。また、双方向性の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていく。
テキスト	・「教育課程・保育課程論」神長美津子・塩谷香編著（光生館） ・文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』（フレーベル館）
参考文献	「教育・保育課程論」岩﨑淳子ほか編著（萌文書林）　ほか　随時紹介
評価方法	試験（60%）、授業へ参加度（40%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前にテキストの該当箇所を事前読んでおくこと。（2 時間） 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。（2 時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前 9 時～10 時
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守する。

授業科目	教育実習の研究	授業の方法・単位	実習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　後期　～　２年　前期		
担当教員	浜田　幸作・堂本　真実子（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学生が、幼稚園教諭としての職責を理解するため、幼稚園で実習を行うための心構えや記録のまとめ方、指導計画立案する力を身につけるとともに、観察と記録およびその振り返りによる課題発見と改善計画を具体的に定める。その上で教育実習に向けた適切な準備を行う。さらに教育実習終了後、成果報告と振り返りによる課題のまとめと改善計画を具体化する。 ＜到達目標＞ ・教育実習に向けた準備を行うとともに、観察記録の体験を通して実践力を身につけることができる。 ・実習記録の書き方を理解することができる。 ・指導計画を立案し保育の実践を行うことができる。 ・教育実習の成果をまとめ、今後の課題と計画を具体的に説明することができる。		

授業の計画			
	1	教育実習の意義と目的	（堂本）
	2	幼児理解①（より良い保育をつくり出すために）	（堂本）
	3	幼児理解②（教師の姿勢）	（堂本）
	4	幼児理解③（記録の意義と生かし方）	（堂本）
	5	記録からの幼児理解①（人間関係）	（堂本）
	6	記録からの幼児理解②（教師の援助）	（堂本）
	7	記録からの幼児理解③（環境と子どもの遊び）	（堂本）
	8	実習記録のまとめ方①（記録をすることの意味　記録を通した成長過程　記録の演習）	（堂本）
	9	実習記録のまとめ方②（環境構成の視点　考察の視点　記録の演習）	（堂本）
	10	実習記録のまとめ方③（文書構成　記録の演習）	（堂本）
	11	観察と記録の実践①（幼児を観察する視点の育成、幼稚園教諭の職務の観察）	（堂本）
	12	観察と記録の実践②（日誌への記録の実践、幼稚園教諭の職務の理解）	（堂本）
	13	観察と記録の実践③（幼児を観察する視点の強化、考察の深化）	（堂本）
	14	幼稚園の理解、実習後の対応について	（堂本）
	15	守秘義務、人権、職業倫理について	（堂本）
	16	子どものかかわりを通した記録の実践①（教師と子どものかかわり）	（堂本）
	17	子どものかかわりを通した記録の実践②（環境と子どものかかわり）	（堂本）
	18	子どものかかわりを通した記録の実践③（子ども同士のかかわり）	（堂本）
	19	子どものかかわりを通した記録の実践④（異年齢とののかかわり）	（堂本）
	20	実習記録に基づいた指導計画の評価と改善①（幼児理解）	（堂本）
	21	実習記録に基づいた指導計画の評価と改善②（ねらい・内容）	（堂本）
	22	実習記録に基づいた指導計画の評価と改善③（環境構成と教師の支援）	（堂本）
	23	実習記録に基づいた指導計画の評価と改善④（保育の反省・評価）	（堂本）
	24	事前指導特別講義（教育実習園による教育実習の心構えと諸注意）	（浜田）
	25	教育実習園でのオリエンテーション（確認する内容　幼稚園の理解　実習後の対応等）	（浜田）
	26	学科オリエンテーション：教育実習にあたっての心構え（守秘義務・人権・職業倫理）	（浜田）
	27	実習の振り返りと今後の課題	（堂本）
	28	事後指導：観察記録の実践の反省と改善計画についての成果報告①	（堂本）
	29	事後指導：観察記録の実践の反省と改善計画についての成果報告②	（堂本）
	30	事後指導：観察記録の実践の反省と改善計画についての成果報告③	（堂本）

授業の方法	教科書とプリントを使用し講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。また、双方向性の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていく。
テキスト	・「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著（ミネルヴァ書房） ・「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） ・「幼児理解と評価」文部科学省（ぎょうせい） ・「指導と評価に生かす記録」（チャイルド本社） ・「指導計画の作成と保育の展開」（フレーベル館）
参考文献	随時紹介
評価方法	幼稚園における観察と記録の実践についての園評価（60%）、授業への取り組み・レポート（40%）などを勘案して総合的に評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：事前にテキストの該当箇所を事前読んでおくこと。 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前９時～10 時
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守すること。

授業科目	教育実習	授業の方法・単位	実習４単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	浜田　幸作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 教育実習を通じて、幼稚園教諭の役割についての認識を深め、確かな学級経営力、保育指導力、幼稚園教諭としての資質を身に付ける。 ＜到達目標＞ ・指導計画を立案し、実践することができる。 ・さまざまな保育技術を身につけることができる。 ・幼稚園教諭としての職業倫理を身につけることができる。 ・今後の学習課題を見いだすことができる。		

授業の計画		
	1	実習施設の理解（目安とされる時間：8 時間、以下同じ） 幼稚園の機能と施設の理解　　幼稚園の教育目標と教育課程の理解
	2	幼稚園の一日の流れの理解（16 時間） 子どもの１日の生活の流れについての理解
	3	幼児の個人差について理解し、多様な保育方法への対応①（16 時間） 幼児の個人差、発達の違いに応じた保育の在り方の理解
	4	乳幼児の個人際について理解し、多様な保育方法への対応②（8 時間） 特別な支援を必要とする幼児への支援の在り方の理解
	5	乳幼児の個人際について理解し、多様な保育方法への対応③（8 時間） 教育課程終了後等における教育活動の意義と取組の理解
	6	保育計画・指導計画の理解と実践①（18 時間） 幼児理解に基づく、保育の一部を担当する指同計画の立案と実践
	7	保育計画・指導計画の理解と実践②（18 時間） 幼児理解に基づく、保育の一日を担当する指同計画の立案と実践
	8	保育技術の習得①（12 時間） 幼児の発達に応じた環境構成及び環境の再構成の在り方の理解
	9	保育技術の習得②（12 時間） 幼児の発達に応じた、教材研究の方法と教材作成の理解
	10	家庭・地域社会の理解①（8 時間） 幼児期の教育についての保護の理解推進と啓発について理解
	11	家庭・地域社会の理解②（8 時間） 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の在り方についての理解
	12	自己課題の明確化（8 時間） 実習を総括し、実習を通して得た自己課題を整理することにより、幼稚園教諭として必要な資質・能力について理解
	13	職員間の役割分担とチームワークについての理解（8 時間） 幼稚園教諭としての役割分担と連携の理解
	14	安全及び疾病予防への配慮についての理解（8 時間） 幼稚園における安全や衛生に対する仕組みと個々の配慮の理解
	15	保育の計画、観察、記録の実践（16 時間） 教育課程に基づく指導計画・実践・省察・評価（PDCA）による保育の理解
	15	幼稚園教諭としての倫理の学習（8 時間） 職業倫理の理解　保育を通した守秘義務や個人のプライバシーの保護に関する重要性の理解
	16	

授業の方法	実習。実習期間は平成 29 年 6 月 5 日（月）～7 月 1 日（土）　4 週間高知県内の幼稚園（例外的に県外の幼稚園）。
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）
参考文献	随時紹介
評価方法	実習施設からの評価 70%をもとに、実習日誌など大学への提出物 30%を勘案して、総合的に評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：実習園等について、事前に情報を収集しておくこと。 復習：自己課題に基づき日々の実習を振り返り、今後の実習及び学習の目的を持つこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前 9 時～10 時
履修上の注意事項	実習内容については、本学の指導要綱に基づくが、具体的な内容や計画の流れについては実習施設の指導方針や実習生の学習成果獲得の進度に基づいて進められる。 履修に当たっては「幼児保育学科・学外実習に関する内規」の条件を満たしていなければならない。

授業科目	保育実習指導Ｉ－１	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	浜田　幸作、山中　淳江（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・保育実習Ｉ－１の目的・意義および内容について理解する。 ・目的意識を持って実習現場へ臨むことができるように、基本的な知識・技能・態度・職業人としての振る舞いやマナーを身につける。 ＜到達目標＞ ・保育実習Ｉ－１までのスケジュールを把握し、実習に向けた準備をすることができる。 ・実習記録の書き方を理解することができる。 ・指導計画を立案することができる。		

授業の計画		
	1	保育実習の意義と目的　（山中）
	2	実習の目的・意義についての理解　（山中）
	3	保育所の理解・保育所の一日　（山中）
	4	実習園の説明・実習配属について　（山中）
	5	実習における自己課題の明確化①　課題の整理　（山中）
	6	実習における自己課題の明確化②　課題の文章化　（山中）
	7	実習記録の書き方①　記録の意義　実習日誌の基本パターンと内容　（山中）
	8	実習記録の書き方②　記録のポイント　（山中）
	9	実習記録の書き方③　分かりやすい文書のルール　（山中）
	10	指導計画の立案①　指導案作成のポイント　（山中）
	11	指導計画の立案②　指導計画作成　（山中）
	12	保育技術について①　遊びの理解と研究、実践　（山中）
	13	保育技術について②　遊びの理解と実践　（山中）
	14	実習園でのオリエンテーション（確認する内容、保育所の理解、実習後の対応）　（山中）
	15	学科オリエンテーション（実習にあたっての心構え（守秘義務・人権・職業倫理）　（浜田）
	16	

授業の方法	教科書とプリントを使用し講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。また、双方向性の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていく。
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著（ミネルヴァ書房）・「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）
参考文献	「実習日誌の書き方」相馬和子編著（萌文書林）ほか随時紹介
評価方法	レポート（60%）、授業への取り組み（40%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前にテキストの該当箇所を事前読んでおくこと。 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。 保育期間での保育体験の実施　（予習・復習合計１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前９時～10 時
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守する。

授業科目	保育実習指導１－２	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期・後期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 施設保育士としての必要な知識と技能を身につけるため、施設実習の「事前指導」と「事後指導」によって施設実習の意義・目的を理解し、施設実習の課題を的確に判断できるようになる。 施設保育士としての必要な知識と技能を身につけるため、実習の目的や方法など実習全体に関わる基礎的な事項等について理解し、施設実習における基本的事項を実践できるようになる。 「平和と友愛」に貢献するため、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して、実習施設における子ども(利用者)の人権と最善の利益の考慮ため、自ら行動することができるようになる。 ＜到達目標＞ 施設実習の意義・目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 施設実習における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務ついて理解することができる。 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができる。 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。		

授業の計画		
	1	授業の概要　・幼児保育学科生活のあり方について　・幼児保育学科・学外実習に関する内規他 施設実習の基礎①　施設実習の目的と意義
	2	施設実習の基礎②　・ねらいと内容　・施設保育士の役割 ・保育士の役割と倫理　・児童相談所について
	3	施設実習の基礎③　・児童福祉法及び関連法案（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、重症心身障害児施設）
	4	施設実習の基礎④　・児童福祉法及び関連法案（知的障害児施設、知的障害者施設、肢体不自由児施設）
	5	実習先の概要について　・児童養護施設８カ所　・乳児院１カ所　・母子生活支援施設１カ所 ・知的障害児・者施設６カ所　・肢体不自由児施設１カ所　・重症心身障害児施設１カ所 ・実習先別グループ学習　※ＡＢ合同授業
	6	実習施設の実際①　・実習期間　・実習の内容　・目的　・記録　・実習日誌他
	7	実習施設の実際②　・実習に関する事務手続きについて　・施設実習日誌の書き方のポイント ・知的障害児施設の実習日誌の書き方の実際の実際
	8	施設実習の実際③　・児童養護施設の実習日誌の書き方の実際
	9	施設実習の実際④　・重症心身障害児施設・乳児院実習日誌の書き方の実際
	10	施設実習の実際⑤　・自己課題と実習日誌
	11	施設実習の実際⑥　・施設のオリエンテーションについて、施設への連絡や心構え、報告書の作成について
	12	施設実習の実際⑦　・１０日間の流れと各自の実習先について
	13	施設実習の実際⑧　・実習終了時の実習の評価、施設での反省会、実習施設へのお礼状について ・実習終了後の施設とのかかわり方や実習課題について
	14	事後指導①　自己課題に基づく、実習の振り返り
	15	事後指導②　今後における児童福祉施設の在り方と展望
	16	

授業の方法	演習（講義形式、演習を含む）・グループディスカッション
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著　（ミネルヴァ書房） 必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	随時紹介
評価方法	レポート６０％　実習先別グループ作成レポート１０％　オリエンテーションレポート１０％・授業への取り組み２０％
授業時間外に必要な学習	事前にテキストや資料の該当箇所を読んでおくこと　予習３０分 学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解をふかめること。　復習３０分
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時
履修上の注意事項	「学生生活の履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目の説明事項を守ること。 実習前の特別講義を必ず受講すること。

授業科目	保育実習Ⅰ－1	授業の方法・単位	実習２単位
開講学科等	幼児保育学科　１年　前期		
担当教員	浜田　幸作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・習得した教科全体の知識・技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。 ＜到達目標＞ ・観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深めることができる。 ・保育所の機能と保育士の職務について理解することができる。 ・既習の教科の内容を基に、子どもの保育及び保護者への支援について理解することができる。		

授業の計画		
	1	実習施設の理解（目安とされる時間：4 時間、以下同じ） 保育所の概要の理解　　保育所の保育目標の理解
	2	保育の一日の流れの理解（8 時間） 保育所保育指針の理解と保育の展開との関係の理解　　保育所の生活への主体的な参加
	3	乳幼児の発達の理解①（8 時間） 観察やかかわりを通した乳幼児の遊びや生活の実態の理解
	4	乳幼児の発達の理解②（4 時間） 継続的な記録を通した子ども理解の深化　　子どもへの援助やかかわりの再構成
	5	乳幼児の発達の理解③（6 時間） 子どもへの援助やかかわりを深める
	6	保育計画・指導計画の理解①（8 時間） 保育計画の意義と保育内容についての理解　子どもの発達過程に応じた保育内容の理解
	7	保育計画・指導計画の理解②（8 時間） 子どもの生活や遊びにおける保育環境の重要性の理解
	8	保育技術の習得①（6 時間） 生活や遊び等の一部を担当
	9	保育技術の習得②（6 時間） 子どもの援助・指導
	10	家庭・地域社会の理解（4 時間） 保育所と家庭との連絡　　家庭とのコミュニケーション　地域における子育て支援事業の理解
	11	子どもの最善の利益を具体化する方法の学習（8 時間） 子どもにとってよりよい生活や関わりのあり方の考察　　保育所全体としての取り組み
	12	職員間の役割分担とチームワークについての理解（4 時間） 保育士としての役割分担と連携の理解
	13	安全及び疾病予防への配慮についての理解（4 時間） 保育所における安全や衛生に対する仕組みと個々の配慮の理解
	14	保育の計画、観察、記録の実践（8 時間） 部分実習等における指導計画の立案　　記録に基づく省察・自己評価
	15	保育士としての倫理の学習（4 時間） 職業倫理の理解　保育を通した守秘義務や個人のプライバシーの保護に関する重要性の理解
	16	

授業の方法	実習。実習期間は平成 29 年 9 月 4 日（月）～9 月 16 日（土）　2 週間高知県内の保育所（例外的に県外の保育所）。
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著（ミネルヴァ書房）・「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）
参考文献	「実習日誌の書き方」相馬和子編著（萌文書林）ほか随時紹介
評価方法	実習施設からの評価 70%をもとに、実習日誌など大学への提出物 30%を勘案して、総合的に評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：自己課題について、どのように学びを深めていくか自分の考えを持つ。 復習：自己課題に基づき日々の実習を振り返り、今後の実習及び学習の目的を持つこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前 9 時～10 時
履修上の注意事項	実習内容については、本学の指導要綱に基づくが、具体的な内容や計画の流れについては実習施設の指導方針や実習生の学習成果獲得の進度に基づいて進められる。 履修に当たっては「幼児保育学科・学外実習に関する内規」の条件を満たしていなければならない。

授業科目	保育実習Ｉ－２	授業の方法・単位	実習２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	祐東　孝好		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 施設保育士としての知識と技能を身につけるために、居住型児童施設等の生活に参加し、機能と施設保育士の職務について理解し、その内容と意義を説明することができるようになる。 「平和と友愛」に貢献するため、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して、子ども(利用者)の最善の利益のため、自ら行動することができるようになる。 ＜到達目標＞ 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めることができる。 施設の機能とそこでの保育士の職務及び職業倫理について理解し、説明することができる。		

授業の計画		
	1	実習施設について理解（４時間） 施設の概要の理解　　施設の設立理念と養護の目標の理解
	2	施設の一日の流れの理解（８時間） 施設の生活に参加し、一日の生活の流れの理解 子ども（利用者）や保育士とともに生活し、施設の生活状況の理解
	3	子ども(利用者)のニーズの理解(８時間) 観察を通して、子ども(利用者)の実態の理解 子ども(利用者)と生活を共にし、積極的にかかわることを通して、子ども(利用者)のニーズの理解
	4	援助(支援)計画の理解①(６時間) 援助計画の意味を理解し、施設全体の援助の実態を学ぶ
	5	援助(支援)計画の理解②(６時間) 年齢・発達その他個人の特性などに応じた援助計画の在り方を学ぶ
	6	養護技術の習得①(８時間) 保育士の援助の実際を通して、養護義樹を学ぶ 生活の一部分を実際に担当し、子ども(利用者)の養護の理解
	7	養護技術の習得②(６時間) 子ども(利用者)の個別性に配慮した養護のあり方を学ぶ
	8	職員間の役割分担とチームワークについての理解(８時間) 職員間の引き継ぎ等に触れ、一貫性・継続性に配慮した養護の視点を学ぶ 異業種間の業務内容や役割に触れ、チームワークのあり方についての理解
	9	施設・家庭・地域社会との連携についての理解①(６時間) 施設と家庭との連携の実態に触れ、そのあり方についての理解 保育士と保護者とのかかわりについて説明し、連携のあり方を学ぶ
	10	施設・家庭・地域社会との連携についての理解②(６時間) 地域における子育て支援事業の実態についての理解 地域における社会資源(児童相談所・小中学校・医療機関等)についての理解
	11	子ども(利用者)の最善の利益を具体化する方法について学ぶ①(６時間) 日常の保育士と子ども(利用者)とのかかわりを通して、子ども(利用者)にとってよりより生活やかかわりのあり方を学ぶ
	12	子ども(利用者)の最善の利益を具体化する方法について学ぶ②(４時間) 子ども(利用者)の最善の利益を追求する施設全体の取り組みについて学ぶ
	13	保育士の倫理観を具体的に学ぶ(６時間) 守秘義務の遵守等がどのようになされているかを学ぶ 個人のプライバシーが、具体的にはどのように保護されているか学ぶ
	14	安全及び疾病予防についての理解①(４時間) 施設全体の安全に対する取り組みと個々の配慮の理解
	15	安全及び疾病予防についての理解②(４時間) 一人一人の子ども(利用者)に対する安全の配慮の理解 一人一人の子ども(利用者)に対する衛生の配慮の理解
	16	

授業の方法	平成２９年８月７日（月）～９月２９日（金）　この期間のうち１０日間 高知県内の施設（児童養護、乳児院、障害児・者施設、母子生活支援施設他）
テキスト	太田光洋　編著「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」　（ミネルヴァ書房）
参考文献	随時紹介
授業時間外に必要な学習	予習実習園等について、事前に情報を収集しておくこと。 復習自己課題に基づき日々の実習を振り返り、今後の実習及び学習の目的を持つこと。
評価方法	実習施設からの評価７０％をもとに、実習日誌など大学への提出物３０％を勘案して、総合的に評価する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	月曜日　午後４時～５時　その他の時間も随時
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守する。 履修にあたっては」幼児保育学科・学外実習に関する内規」の条件を満たしていなければならない。

授業科目	保育実習指導Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	浜田　幸作、山中　淳江（非常勤）		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 学生が、保育所で実習を行うための心構えや記録のまとめ方、指導計画立案を身につけるとともに、実習後の振り返りによる課題発見と改善計画の具体化、および社会人基礎力を身につける。 ＜到達目標＞ ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。 ・保育実習Ⅰや既習の教科の内容およびその関連性を踏まえ、保育実践力を培うことができる。 ・事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。		

授業の計画		
	1	保育実習Ⅰ-1と保育実習Ⅱの継続性および段階性　保育実習における心構え　（山中）
	2	実習園でのオリエンテーションについて マナー　確認する内容　（山中）
	3	実習記録のまとめ方① 記録することの意味　記録を通した成長過程　記録の演習　（山中）
	4	実習記録のまとめ方② 考察の視点　記録の演習　（山中）
	5	実習における自己課題の明確化 課題の整理　（山中）
	6	保育所保育指針における子どもの発達の理解 発達を踏まえた子どもとのかかわり　子どもとかかわるときの留意点　（山中）
	7	発達に応じた記録のまとめ方 乳児期・幼児期前期・幼児期後期それぞれにおける観察の視点　（山中）
	8	指導案作成① 指導案作成における留意点　（山中）
	9	指導案作成② 活動別にみた指導計画立案の視点　（山中）
	10	学科オリエンテーション 実習にあたっての心構え（守秘義務・人権意識・職業倫理について）　（浜田）
	11	特別講義 保育所の職員による講話　（浜田）
	12	事後指導① 実習全体の振り返り　自己課題の明確化と改善計画立案　（山中）
	13	事後指導② 子どもの関りの振り返り　保育者の職務の振り返り　環境構成の重要性　（山中）
	14	事後指導③ 保育者の言葉かけの意図　振り返りのまとめと発表　（山中）
	15	保育士としての職務 社会人基礎力との関わり　子どもの育ちと生活および保育者の仕事のまとめ　（山中）
	16	

授業の方法	教科書とプリントを使用し講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。また、双方向性の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていく。
テキスト	・「教育・保育実習のデザイン」東京家政大学「教育・保育実習のデザイン」研究会　萌文書林
参考文献	・「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」太田光洋編著（ミネルヴァ書房）
評価方法	レポート（60%）、授業への取り組み（40%）
授業時間外に必要な学習	予習：事前にテキストの該当箇所を事前読んでおくこと。 復習：学習内容を復習して、自分の考えをまとめ理解を深めること。（予習・復習１時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前９時～10時
履修上の注意事項	「学生生活と履修の手引き」に記載している内容、及び授業１回目に説明する事項を厳守する。履修にあたっては「保育実習指導Ⅰ-1」および「保育実習Ⅰ-1」の単位を修得していなければならない。あわせて「保育実習指導Ⅰ-2」および「保育実習Ⅰ-2」の単位修得（見込含む）していなければならない。

授業科目	保育実習Ⅱ	授業の方法・単位	実習２単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	浜田　幸作		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ ・習得した教科全体の知識・技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。 ・子どもに対する理解を通じて、保育の理論と実践との関係について習熟する。 ＜到達目標＞ ・保育所の保育を実際に実施し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。 ・家庭と地域の生活実態に触れて、子どもや家庭のニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。		

授業の計画		
	1	実習施設の理解（目安とされる時間：4 時間、以下同じ） 保育所の概要の理解　　保育所の保育目標の理解
	2	保育の一日の流れの理解（8 時間） 保育所保育指針の理解と保育の展開との関係の理解　　保育所の生活への主体的な参加
	3	乳幼児の個人差について理解し、多様な保育方法への対応①（8 時間） 乳幼児の個人差、発達の違いに応じた保育の在り方
	4	乳幼児の個人際について理解し、多様な保育方法への対応②（4 時間） 特別な支援を必要とする乳幼児への支援の在り方
	5	乳幼児の個人際について理解し、多様な保育方法への対応③（4 時間） 延長保育をはじめとする多様な保育ニーズへの対応の仕方
	6	保育計画・指導計画の理解と実践①（8 時間） 乳幼児理解に基づく、保育の一部を担当する指導計画の立案と実践
	7	保育計画・指導計画の理解と実践②（8 時間） 乳幼児理解に基づく、保育の一日を担当する指導計画の立案と実践
	8	保育技術の習得①（6 時間） 乳幼児の発達に応じた環境構成の在り方
	9	保育技術の習得②（6 時間） 乳幼児の発達に応じた教材研究の在り方
	10	家庭・地域社会の理解①（4 時間） 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して行う保育についての保護者理解
	11	家庭・地域社会の理解②（4 時間） 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
	12	子どもの最善の利益を具体化する方法の学習（8 時間） 児童虐待への対応、保育所保育の理念と目的
	13	職員間の役割分担とチームワークについての理解（4 時間） 保育士としての役割分担と連携の理解
	14	安全及び疾病予防への配慮についての理解（4 時間） 保育所における安全や衛生に対する仕組みと個々の配慮の理解
	15	保育の計画、観察、記録の実践（8 時間） 保育課程に基づく指導計画・実践・省察・評価（PDCA）による保育の理解
	15	保育士としての倫理の学習（4 時間） 職業倫理の理解　保育を通した守秘義務や個人のプライバシーの保護に関する重要性の理解
	16	

授業の方法	実習。実習期間は平成 29 年 11 月 6 日（月）～11 月 17 日（土）　2 週間高知県内の保育所（例外的に県外の保育所）。
テキスト	「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）
参考文献	随時紹介
評価方法	実習施設からの評価 70%をもとに、実習日誌など大学への提出物 30%を勘案して、総合的に評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：自己課題について、どのように学びを深めていくか自分の考えを持つ。 復習：自己課題に基づき日々の実習を振り返り、今後の実習及び学習の目的を持つこと。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	水曜日午前 9 時～10 時
履修上の注意事項	実習内容については、本学の指導要綱に基づくが、具体的な内容や計画の流れについては実習施設の指導方針や実習生の学習成果獲得の進度に基づいて進められる。 履修に当たっては「幼児保育学科・学外実習に関する内規」の条件を満たしていなければならない。

授業科目	健康教育演習Ⅰ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　前期		
担当教員	吉村　　斉、渡邊　慶子、下元　智世、竹村　　正、武市　和彦、村上　雅尚、大野　由香、 中石　裕子、坂本　まゆみ、野村　加代、和食　沙紀、山本　和代		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　人類の福祉と文化の進展に寄与する上で、特に子ども期の健康を支える専門的職業人育成を目的とし、学生が食・医・教育の多様な分野から「歯みがき」の指導法についての計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。 ＜到達目標＞ 　子ども期の歯みがきについて、各専門性と連携しながら、子ども期の健康づくりに貢献できる実践力を身につけ、自分たちの専門性へ反映することができる。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション 子ども理解と子どもへの対応①（幼児保育学科：吉村）幼児の発達特性と健康指導案の作成
	2	子ども理解と子どもへの対応②（幼児保育学科：竹村） 子どもの理解と音楽表現
	3	口腔内の健康①（医療衛生学科医療検査専攻：武市・村上）
	4	口腔内の健康②（医療衛生学科医療検査専攻：武市・村上）
	5	子ども期（幼児）のおやつ①（生活科学学科：渡邊・下元） その必要性と与え方について
	6	子ども期（幼児）のおやつ②（生活科学学科：渡邊・下元） その必要性と与え方について
	7	歯みがきの方法①（医療衛生学科歯科衛生専攻：大野・中石・坂本・野村・和食）
	8	歯みがきの方法②（医療衛生学科歯科衛生専攻：大野・中石・坂本・野村・和食）
	9	生活習慣としての衛生管理①（看護学科：山本） 手洗い指導：指導案のたて方
	10	生活習慣としての衛生管理②（看護学科：山本） 手洗い指導の実際
	11	食・教育・医療から総合的にとらえる歯みがき指導（吉村）
	12	学外実践１（吉村・渡邊・下元・竹村・武市・村上・大野・中石・坂本・野村・和食・山本） 　歯っぴいスマイルフェアでの実践から振り返る課題
	13	歯っぴいスマイルフェアでの実践から振り返る課題
	14	学外実践２（吉村・渡邊・下元・竹村・武市・村上・大野・中石・坂本・野村・和食・山本） 　高知学園短期大学附属高知幼稚園における連携活動 　内容　①子ども期（幼児期）のおやつ　（生活科学学科） 　②あそびを中心にした基本的生活習慣の指導（幼児保育学科） 　③子どものメタボ検査：身長と体重測定　（医療衛生学科医療検査専攻）
	15	④うがい・歯みがき指導　（医療衛生学科歯科衛生専攻） 　⑤手洗い指導　（看護学科） 　実践の成果と課題の考察
	16	

授業の方法	学内外での演習と学外実践活動
テキスト	プリント等を配布
参考文献	
評価方法	各テーマに基づく態度、レポートを 90 点（各学科・専攻担当分で 18 点）、実践での取組（10 点）を総合的に評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：自分が所属する学科・専攻における専門性の活用方法を調べる。 復習：他の専門性を自分の専門性への活用方法を整理し、実践できるようにする。対象に応じたプレゼンテーションを行うための方法や注意点について学習しておく（予習・復習合計 1 時間）。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各担当教員に事前に連絡のうえ訪問してください。
履修上の注意事項	日程については掲示でお知らせします。

授業科目	健康教育演習Ⅱ	授業の方法・単位	演習・１単位
開講学科等	幼児保育学科　２年　後期		
担当教員	吉村　　斉、渡邊　慶子、下元　智世、竹村　　正、髙岡　榮二、森田　尚亨、中村　泰子、 大野　由香、坂本　まゆみ、中石　裕子、野村　加代、和食　沙紀、今村　優子		
授業の目的・到達目標	＜授業の目的＞ 　人類の福祉と文化の進展に寄与する上で、特に高齢者の健康を支える専門的職業人育成を目的とし、学生は食・教育・医療の分野から高齢者の健康の指導法について計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。 ＜到達目標＞ 　高齢者の健康について、各専門性と連携しながら、地域・施設における高齢者の健康で心豊かな生活を支える実践活動を通し地域貢献の意義を自分たちの専門性へ反映することができる。		

授業の計画		
	1	オリエンテーション 発達心理学からみた高齢者の特徴（吉村）
	2	高齢者の理解と音楽の効果（竹村）
	3	高齢者の臨床検査値（髙岡）
	4	高齢者の生理検査と骨密度の測定法（森田・中村）
	5	口腔体操（口腔機能向上）の目的と効果（大野・中石・坂本・野村・和食）
	6	口腔体操の方法と媒体作成（大野・中石・坂本・野村・和食）
	7	高齢者の体の変化と疾患（今村）
	8	高齢者が安全に日常生活を送るための方法（今村）
	9	高齢者の日常生活（渡邊・下元）
	10	高齢者に適した食事（渡邊・下元）
	11	学外における実践 施設（デイケア施設）訪問における取組の計画
	12	取組の実践　①高齢者のための音楽表現とレクリエーション（幼児保育学科） 取組の実践　②疾病予防のための食事　（生活科学学科）
	13	取組の実践　③骨粗しょう症とは　（医療衛生学科医療検査専攻） 取組の実践　④骨密度測定補助　（医療衛生学科医療検査専攻）
	14	取組の実践　⑤口腔体操　（医療衛生学科歯科衛生専攻） 取組の実践　⑥食事摂取時の姿勢と注意事項　（看護学科）
	15	活動の成果と課題のまとめ
	16	

授業の方法	学内での演習と学外実践活動
テキスト	プリント等を配布
参考文献	
評価方法	各テーマに基づく態度、レポートを 90 点（各学科・専攻担当分で 18 点） 実践での取組（10 点）を総合的に評価する。
授業時間外に必要な学習	予習：自分が所属する学科・専攻における専門性の活用方法を調べる。 復習：他の専門性を自分の専門性への活用方法を整理し、実践できるようにする。対象に応じたプレゼンテーションを行うための方法や注意点について学習しておく。（予習・復習合計 1 時間）
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	各担当教員に事前に連絡のうえ訪問してください。
履修上の注意事項	日程については掲示でお知らせします。